巻末資料

1　グランドデザイン策定の経過 ……(2)
2　加曽利貝塚博物館入館者数の目標設定にかかる分析 ……(3)
3　公園利用者数の目標設定にかかる分析 ……(8)
4　アンケート調査の結果 ……(10)
5　ワークショップの実施結果 ……(15)
6　類似施設の先行事例調査の結果 ……(19)
7　専門家ヒアリングの結果 ……(30)
8　千葉市まちづくり未来研究所による政策提言報告書の抜粋 ……(42)

1　グランドデザイン策定の経過

グランドデザイン策定にあたっては、加曽利貝塚の調査・研究及び公開・活用に関する有識者からの意見を取り入れるため、千葉市史跡保存整備委員会と、その下部組織の史跡加曽利貝塚調査研究部会における協議によりまとめられました。

また、文化庁文化資源活用課及び千葉県教育庁教育振興部文化財課においては、計画策定に伴い、整備・活用に関する専門的な意見をいただきました。

表　巻末 1-1　千葉市史跡保存整備委員会構成委員

No	氏名	所属	専門分野	役職
1	岡本　東三	千葉大学名誉教授	考古学	委員長
2	青木　繁夫	東京芸術大学客員教授	保存科学	副委員長
3	赤坂　信	千葉大学名誉教授	造園学	委員
4	高橋　龍三郎	早稲田大学教授	考古学	委員
5	竹内　惠智郎	千葉市中心市街地まちづくり協議会会長	集客観光	委員
6	谷口　康浩	國學院大學教授	考古学	委員
7	中村　俊彦	放送大学客員教授	自然環境	委員

表　巻末 1-2　加曽利貝塚調査研究部会構成委員

No	氏名	所属	専門分野	役職
1	高橋　龍三郎	早稲田大学教授	考古学	部会長
2	谷口　康浩	國學院大學教授	考古学	副部会長
3	岡本　東三	千葉大学名誉教授	考古学	委員
4	設樂　博己	東京大学教授	考古学	委員

表　巻末 1-3　指導・助言機関

No	氏名	所属	役職
1	中井　將胤	文化庁文化資源活用課	文化財調査官
2	吉野　健一	千葉県教育庁教育振興部文化財課	主任上席文化財主事

表　巻末 1-4　千葉市史跡保存整備委員会開催概要

回数	開催日	内容
第１回	２０１７（平成２９）年　５月３１日	計画の検討方法及び策定までのスケジュール
第２回	２０１７（平成２９）年１１月１５日	グランドデザインの方向性の検討①
第３回	２０１８（平成３０）年　３月１４日	グランドデザインの方向性の検討②
第４回	２０１８（平成３０）年　４月２３日	グランドデザイン（案）の諮問
第５回	２０１８（平成３０）年１２月　４日	グランドデザイン（案）の答申

２　加曽利貝塚博物館入館者数の目標設定にかかる分析

加曽利貝塚博物館の入館者の推移や内訳から、現況について整理しました。さらに、首都圏にある強みを活かし、加曽利貝塚博物館へのアクセス時間を踏まえた圏域の人口について分析を行い、博物館入館者の集客目標数を設定しました。

（１）入館者の推移と内訳

①加曽利貝塚博物館入館者数の推移

次ページ（**図 巻末 2-2～2-4**）のグラフは入館者の推移を表したものです。

加曽利貝塚博物館の入館者のピークは１９８２（昭和５７）年度の７３，２２５人です。この年をピークに入館者数は減少し、１９９８（平成１０）年度に２万人を下回りました。

２０１５（平成２７）年度には、発掘体験等の新しい体験学習プログラムを導入したことにより、２６，２３０人に増加しました。

２０１７（平成２９）年度は特別史跡の指定をはじめ、新たな発掘調査を実施したことなどが報道等で取り上げられたとともに、加曽利貝塚で開催したイベントの効果もあり、７万人を超えました。

②年齢別の団体入館者数の推移

大人（１５歳以上６５歳未満）・小人（６歳以上１５歳未満）別の団体入館者数の推移から、１９８２（昭和５７）年度以降、小人の団体入館者数が減少していることがわかります。これは単に人口減少だけでなく、１９８１（昭和５６）年の国立歴史民俗博物館、１９８６（昭和６１）年の房総のむらの開館等により千葉県内の歴史学習の場が多様化し、加曽利貝塚が小・中学校の社会科見学等の対象先として選ばれなくなってきたことが推定されます。

③入館者の内訳

入館者の内訳について、入館料を徴収していた２０１５（平成２７）年度末の入館者数は、入館料免除者（０歳以上６歳未満及び６５歳以上）を除き、大人１０，４６５人であり、小人１０，９８２人となっています。

この数値と同時期の千葉市の人口（住民基本台帳記載の人口）を比較（入館者数は千葉市内・市外での統計がないため、単に人数の比較となる）すると、大人の入館者数は１．７３％であり、団体より個人の割合が大きくなっています。小人の入館者数は１４．０３％で、大人とは逆に個人より団体の割合が大きくなっています（**図 巻末 2-1**）。

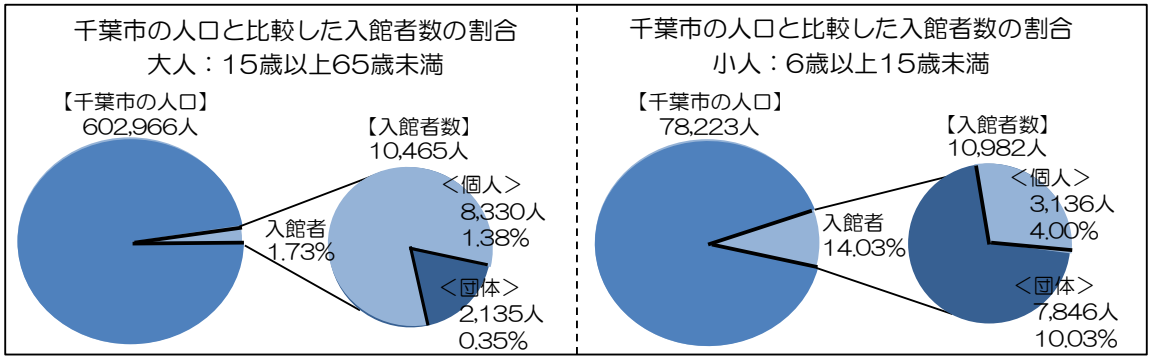


図　巻末 2-1　千葉市の人口と対比した入館者数の割合（２０１５（平成２７）年度末）

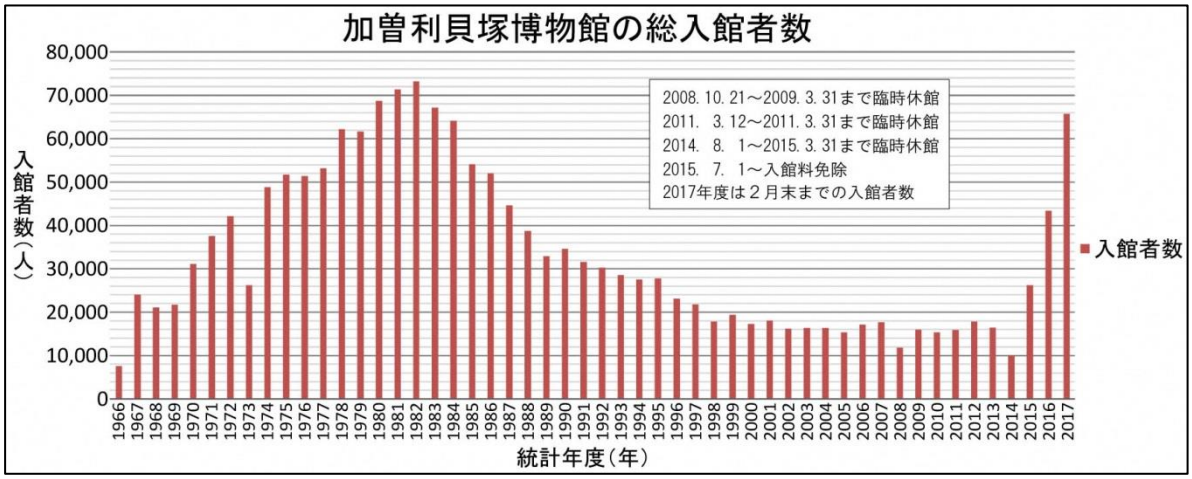


図　巻末 2-2　加曽利貝塚博物館の総入館者数

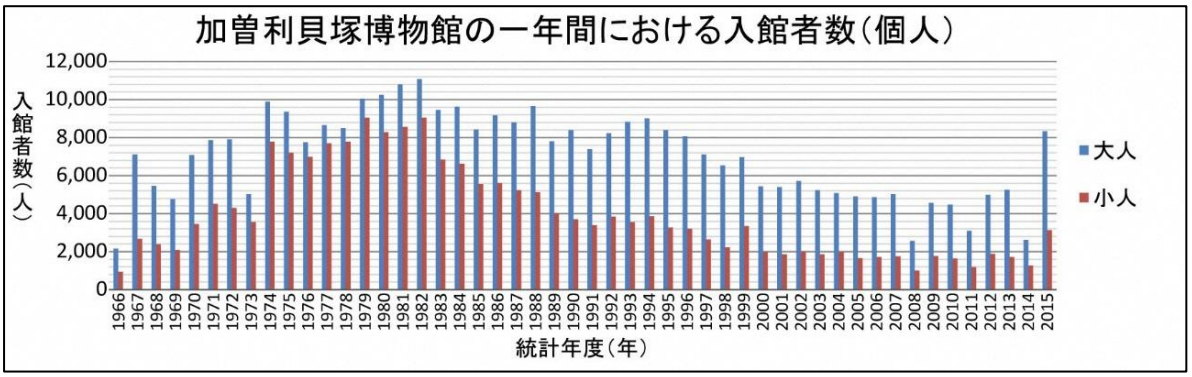


図　巻末 2-3　加曽利貝塚博物館の年間入館者数（個人）

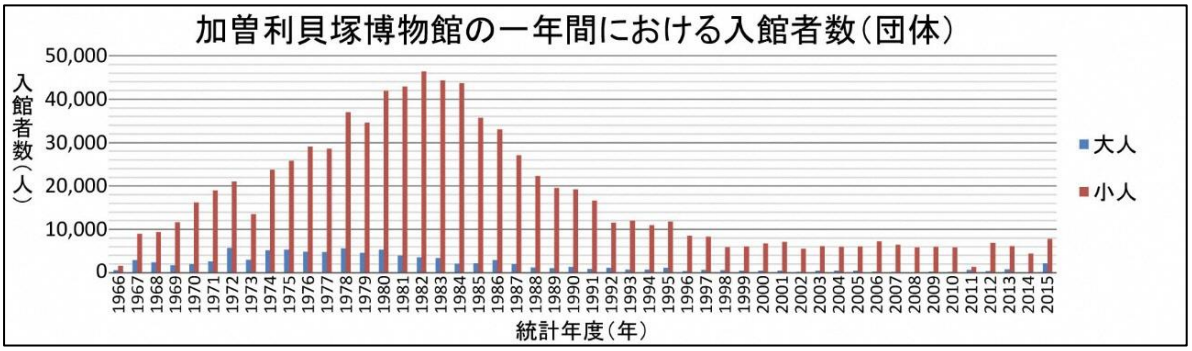


図　巻末 2-4　加曽利貝塚博物館の年間入館者数（団体）

（２）圏域人口の分析

主要となるターゲットの人口が圏域にどれほど存在しているか次のとおり整理しました。

●圏域区分の設定

加曽利貝塚の来訪者として推定される圏域を次ページ(**図 巻末2-5**)のように設定しました。

＜千葉県内　アクセスが概ね１時間以内＞

千葉市、市川市、船橋市、茂原市、佐倉市、東金市、習志野市、市原市、八千代市、浦安市、四街道市、八街市

＜千葉県外　アクセスが概ね２時間以内（総武線沿線エリア）＞

東京都千代田区、港区、新宿区、文京区、台東区、墨田区、江東区、渋谷区、中野区、杉並区、豊島区、荒川区、足立区、葛飾区、江戸川区、武蔵野市、三鷹市

圏域の６歳から１００歳代までの総人口は約８５０万人です。このうち、主要ターゲットの総数を次のとおり推計しました。

●小学生（６歳以上１３歳未満）　約４９０，０００人

※社会科見学は５、６年生が中心であるが、遠足等で低学年も訪れることから、全学年を対象とした。

●小学生とその家族を対象としたファミリー　約１，４７０，０００人

※ひとり親世帯などもあるが、ここではすべて両親がいて、兄弟姉妹がいない３人世帯とした。

●シニア世代（６０歳以上９０歳未満）　約２，３３７，５００人

※主要なターゲットは６０歳以上であるが、ここでは上限を９０歳未満とした。

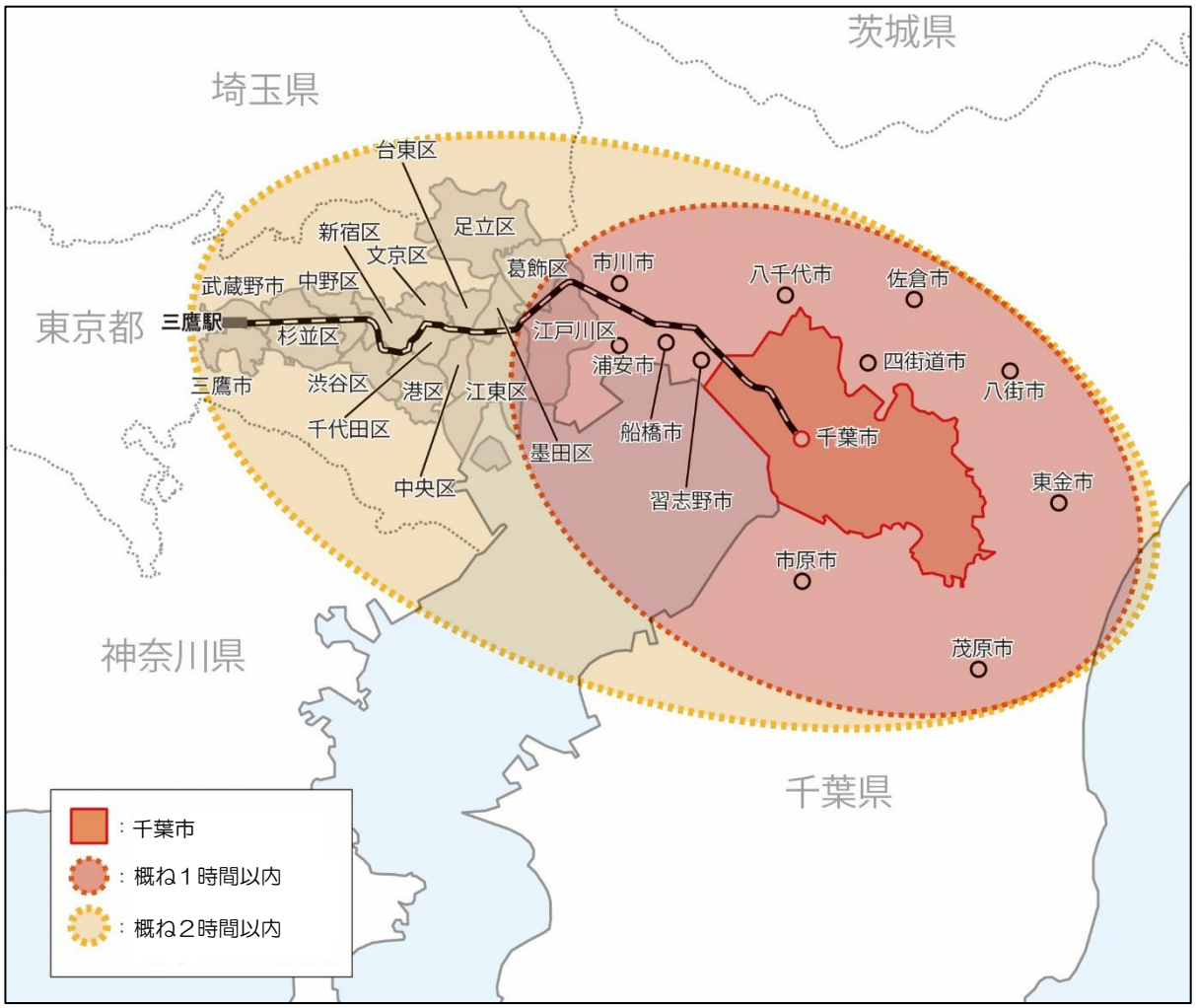


図　巻末 2-5　加曽利貝塚の来訪者の圏域区分図

表　巻末 2-1　加曽利貝塚の来訪者の各圏域人口（2017(平成 29).4.1 現在）　（単位：人）

区分	千葉市内	千葉県内 ｱｸｾｽ概ね１時間以内	千葉県外 ｱｸｾｽ概ね２時間以内	合計
６歳～１２歳（小学生）	59,053	146,094	283,762	488,909
１３歳～１９歳（中学生）	64,803	156,677	280,918	502,398
２０歳代	99,500	270,914	730,421	1,100,835
３０歳代	118,331	319,043	897,586	1,334,960
４０歳代	164,641	401,853	955,651	1,522,145
５０歳代	118,973	292,220	681,048	1,092,241
６０歳代	124,270	312,738	558,846	995,854
７０歳代	109,840	258,672	504,123	872,635
８０歳代	51,837	121,068	296,129	469,034
９０歳代	9,173	22,172	61,475	92,820
１００歳代	335	771	2,368	2,368

（３）加曽利貝塚博物館入館者の集客目標数

千葉市の人口に対する加曽利貝塚博物館入館者数の割合を、主要なターゲットの圏域人口に当てはめ、入館者数の集客目標数を推計しました。

●小学生（６歳以上１３歳未満）の団体

小学生（小人団体）　約４９０，０００人　×　１０．０３％　＝　約５０，０００人

●小学生とその家族を対象としたファミリー

小学生（小人個人）　約４９０，０００人　×　４．００％　＝　約１９，６００人

両親（大人個人）　約１９，６００人　×　２（両親）　＝　約３９，２００人

計　約６０，０００人

●シニア世代（６０歳以上９０歳未満）

シニア（大人個人）約２，３３７，５００人　×　１．３８％　＝　約３２，０００人

シニア（大人団体）約２，３３７，５００人　×　０．３５％　＝　約　８，０００人

計　約４０，０００人

以上のことから、加曽利貝塚博物館入館者数の目標数値は約１５０，０００人と設定します。先行事例調査などを参考に、集客数のある史跡公園の博物館入館者数は１０万人以上であることから、この人数は実現可能であると考えられます。

また、主要なターゲット以外はこの人数に入れておりませんが、研究機能やその体制を確立することにより、研究機関の研究者や学生などの入館者も見込まれることから、さらなる入館者数増も想定されます。

３　公園利用者数の目標設定にかかる分析

加曽利貝塚は史跡見学が中心でありますが、同時に公園的な利用もされています。ここでは、その公園利用者について分析を行い、公園利用者の集客目標数を設定しました。

（１）公園利用者の分析

現在でも加曽利貝塚博物館には入館しないが、様々な目的で公園内を散策している住民が多くいます。この人数を２０１４（平成２６）年度に実施された「公園利用実態調査報告書」（平成２７年３月国土交通省都市・地域整備局公園緑地課／財団法人公園緑地管理財団）の調査結果から想定してみました。

この調査は、２０１４（平成２６）年１０月４日から１０月２６日の間に、１０４ 地方公共団体（４２都道府県・６０市・２特別区）２５６公園、１７ヶ所の国営公園、計２７３公園で実施されました。

利用者数調査は公園の出入口において、７時から１９時までの間、１時間ごとの公園の入園者数及び退園者数をカウントして利用者数を把握しています。

その結果、調査を行った公園１ヶ所あたりの休日及び平日の平均利用者数は、次のとおりでした。

表　巻末 3-1　公園種別ごとの平均利用者数（人）

種類	種別	休　日		平　日	
		入園者数	退園者数	入園者数	退園者数
住区基幹公園	街区公園	222	206	226	216
	近隣公園	811	745	686	644
	地区公園	1,418	1,324	1,119	1,049
都市基幹公園	運動公園	4,798	4,756	3,064	2,931
	総合公園	**4,090**	3,845	**2,424**	2,353
広域公園		4,746	4,557	1,927	1,809
国営公園		12,016	10,889	5,132	5,046

※　平成２６年度都市公園利用実態調査報告書（平成２７年３月国土交通省都市・地域整備局公園緑地課／財団法人公園緑地管理財団より作成

表　巻末 3-2　都市公園の種類（国土交通省 HP より抜粋）

種類	種別	標準面積	内　　容
住区基幹公園	街区公園	0.25ha	もっぱら街区に居住する者の利用に供することを目的とする
	近隣公園	2ha	主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする
	地区公園	4ha	主として徒歩圏内に居住する者の利用に供することを目的とする
都市基幹公園	運動公園	15～75ha	都市住民全般の主として運動の用に供することを目的とする
	総合公園	10～50ha	都市住民全般の休息、観賞、散歩、遊戯、運動等総合的な利用に供することを目的とする
広域公園		50ha 以上	主として一の市町村の区域を超える広域のレクリエーション需要を充足することを目的とする
国営公園		300ha 以上	主として一の都府県の区域を超えるような広域的な利用に供することを目的とする

ただし、この調査における利用者数は１０月初旬から下旬で公園利用者が多い季節を調査期間としており、梅雨（６月中旬～７月中旬頃）や冬季（１２月～２月）は１０月より利用者数が少ないことが想定されます。

そこで、公園等野外施設で月別の利用者数が把握できるデータに基づいて、年間利用者数と１０月の利用者数が１２ヶ月とした場合の差がどの程度であるかを比較してみました。選択に当たっては、季節による利用者数の変動が大きいと想定される施設（冬季の利用が制限される施設、特定時期のイベント等の集客が他と比べて著しく多い施設）は除きました。

表　巻末 3-3　野外施設における年間利用者数と 10 月利用者数×12 ヶ月の比較

名　称	①年間利用者数	②10 月利用者数×12	①÷②
千葉市 動物公園	540,686（H27 年度）	81,938×12＝983,256	0.55
千葉市 三陽メディアフラワーミュージアム	90,962（H27 年度）	12,675×12＝152,100	0.59
佐賀県 国営吉野ケ里歴史公園	692,218（H24 年度）	118,781×12＝1,425,372	0.48
愛知県 愛・地球博記念公園	1,993,700（H27 年度）	383,400×12＝4,600,800	0.43

この比較により、実際の年間利用者数は１０月の利用者数を１２ヶ月とした場合の利用者数の平均は約５０％でした。そこで、「公園利用実態調査報告書」の公園利用者数の５０％を加曽利貝塚の公園利用者の集客目標数にすることとしました。

（２）公園利用者の集客目標数

加曽利貝塚の史跡面積は斜面地等で公園的な利用が出来ない部分も含め、約１５ｈａとなっており、この面積は総合公園に相当します。現在の公園利用の実態は周辺住民による利用が多くみられ近隣公園または地区公園と同様の性格であると考えられますが、今後、グランドデザインに基づく整備が進み、総合公園としての機能が付加された場合を想定して数値を当てはめ、公園利用者の集客目標数を設定します。

●総合公園の利用者数　休日：４，０９０人　×　１２１日　＝　４９４，８９０人
平日：２，４２４人　×　２４４日　＝　５９１，４５６人
合計　１，０８６，３４６人

１，０８６，３４６人　×　５０％　＝　約５５０，０００人

4　アンケート調査の結果

（１）通年アンケート

①調査の概要

●調査期間　　２０１６（平成２８）年７月１６日から２０１７（平成２９）年５月２６日

※縄文春まつり（５月３～５日）を除く。

●有効回答数　１，０００件

※回答が得られたサンプル数を示すもので、複数人の団体・グループから得られた回答は、得られた回答数だけサンプル数としている。

●調査期間中の長期休暇期間の設定

調査期間中、夏休みや冬休み等の長期期間については、下記のとおり設定し、季節による動向変化を把握しました。

※グラフ中の割合はサンプル数の傾向を示すものである。

※団体利用者は、９人以上で来訪した回答サンプルを団体とした。

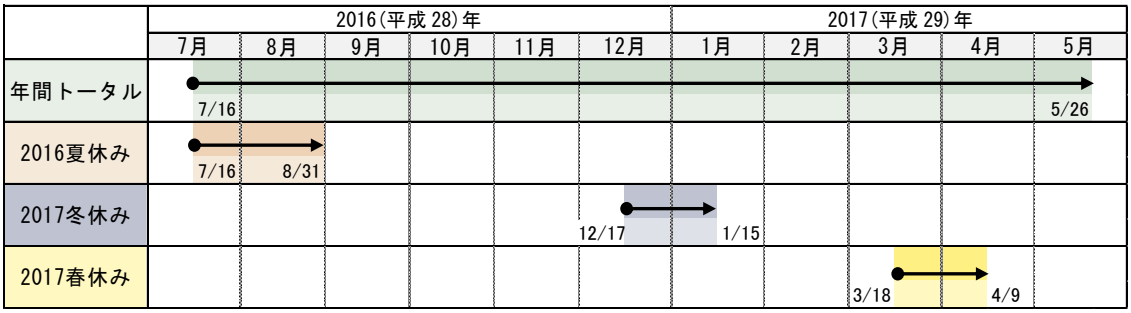


図　巻末 4-1　長期休暇期間の設定

②来訪者の構成と来訪目的

年間を通して家族連れの来訪者が最も多く、その目的は家族と遊ぶためとの理由でした。季節ごとの動向をみると、家族連れや夫婦での来訪者は夏より、冬、春のほうが増加傾向にあります。また同時期に展示や歴史に興味を持った来訪者も増加傾向にあります。その他、夏休み期間中には、学校関係者による研修での利用も多くみられました。

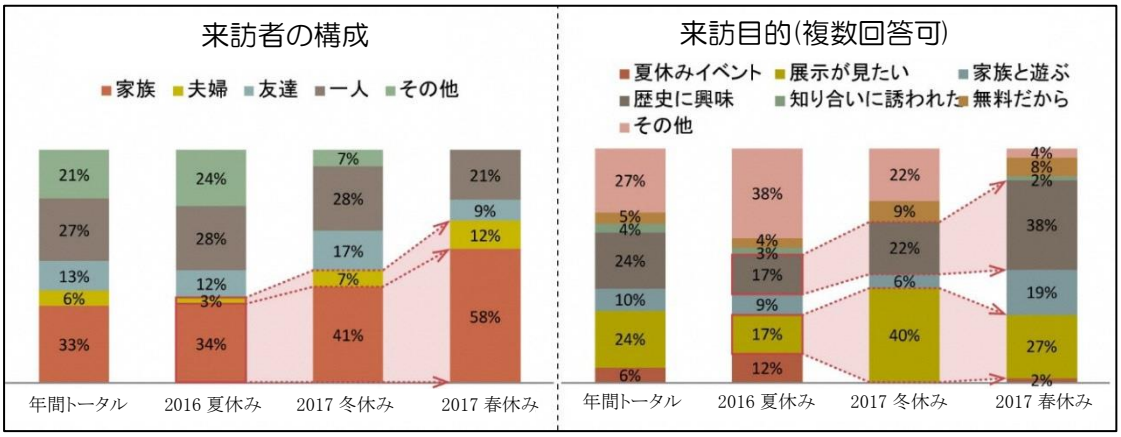


図　巻末 4-2　来訪者の構成と来訪目的

③利用交通機関と来訪のきっかけ

車での来訪者は全体の約半数を占め、季節ごとの違いはほとんど見られません。一方、鉄道・モノレール・バスの公共交通機関の利用者は、年間を通して全体の約３割となっていました。

来訪のきっかけについて、市の広報紙である市政だよりやホームページなど行政からの広報が通年で３割程度を占めています。また、その他の主な理由を見ると、学校の社会科見学や研修の他に、近所であることや以前から知っていたという理由も多く、加曽利貝塚近隣の方々の関心が高いことがわかります。

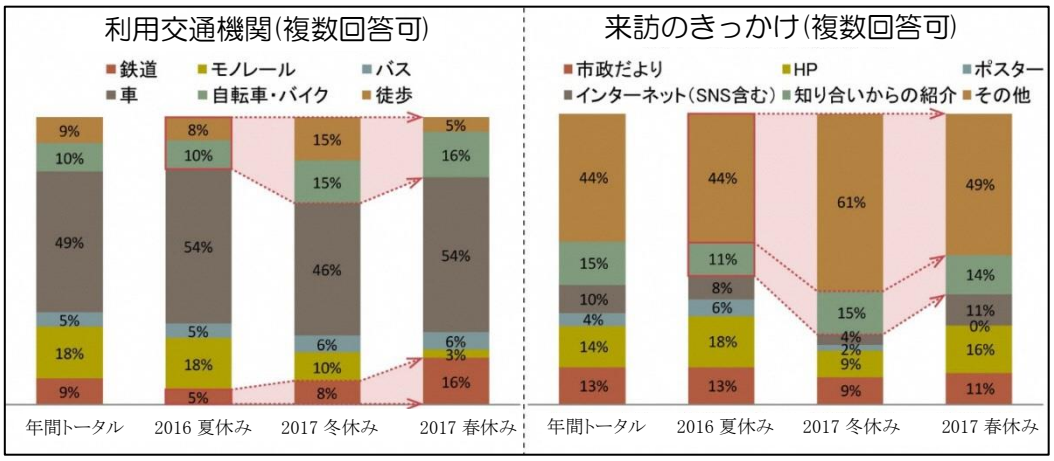


図　巻末 4-3　利用交通機関と来訪のきっかけ

④来訪者の満足度とリピート

来訪者のうち、約８割が満足（大変満足・満足）と回答しているものの、やや不満との回答が増加しています。その主な理由は、展示物の説明が分かりづらく、子どもには難しい内容であることがあげられています。また、加曽利貝塚内の案内が少ないことや、加曽利貝塚までの交通案内が分かりづらいといった意見がありました。

リピートに関する項目では、再度見学を希望（ぜひしたい・ついでがあればしたい）する方が約８割を占めており、リピートに対する意識が高いことがわかります。また、何かが変わったら見学したいという方の割合は約１割であり、展示の更新等が新たなリピーター獲得に繋がると考えられます。

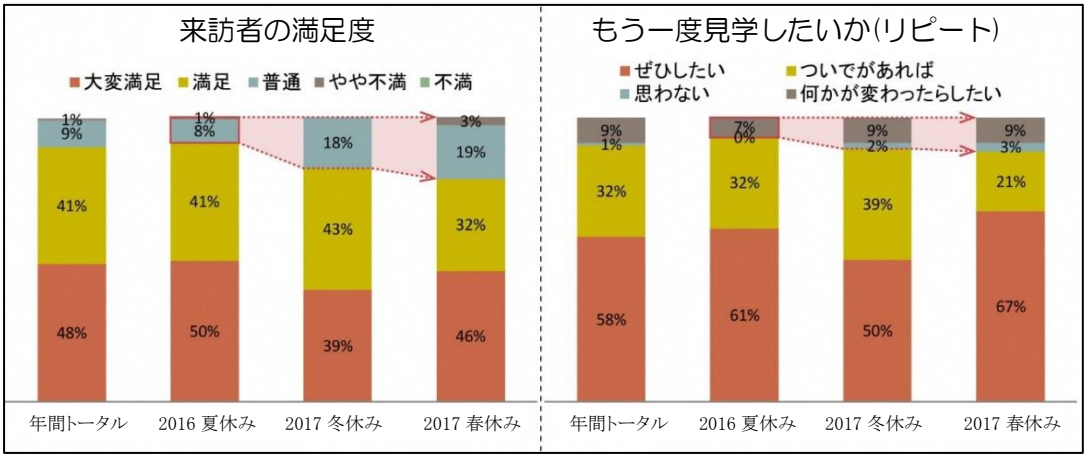


図　巻末 4-4　来訪者の満足度とリピート

⑤個人利用者・団体利用者の利用交通機関

個人利用者の約６割は車で来訪しており、鉄道・モノレール・バスの公共交通機関は２割程度となっています。団体利用者では車での来訪が少なく、公共交通機関の利用が多くを占めています。

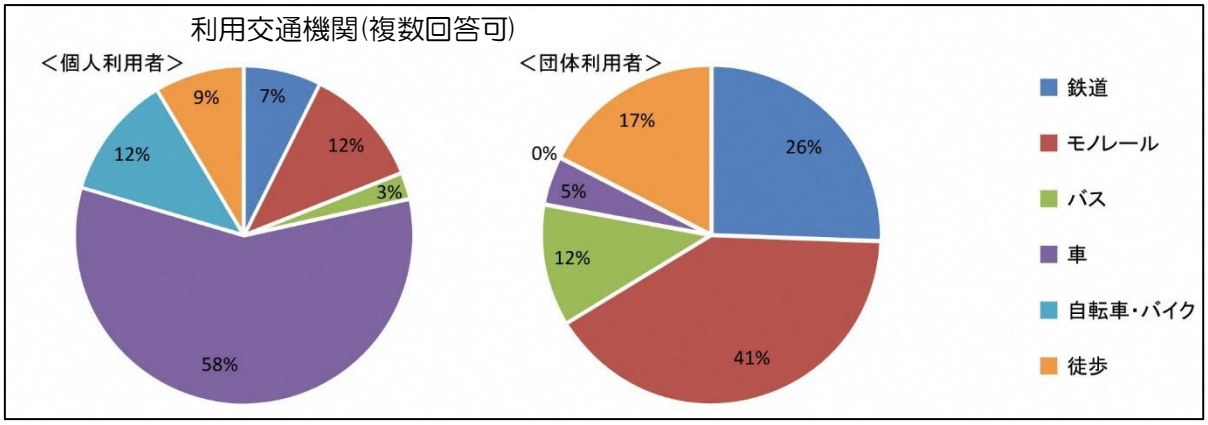


図　巻末 4-5　個人・団体別の利用交通機関

⑥個人利用者・団体利用者の満足度

個人利用者と団体利用者では、大きな違いはなく、どちらも約８割以上が満足（大変満足・満足）したと回答しておりますが、団体利用者の大変満足の割合がやや多くなっています。この要因として団体利用者の場合は、ボランティアガイドによる説明があらかじめ組み込まれていることなどが考えられます。

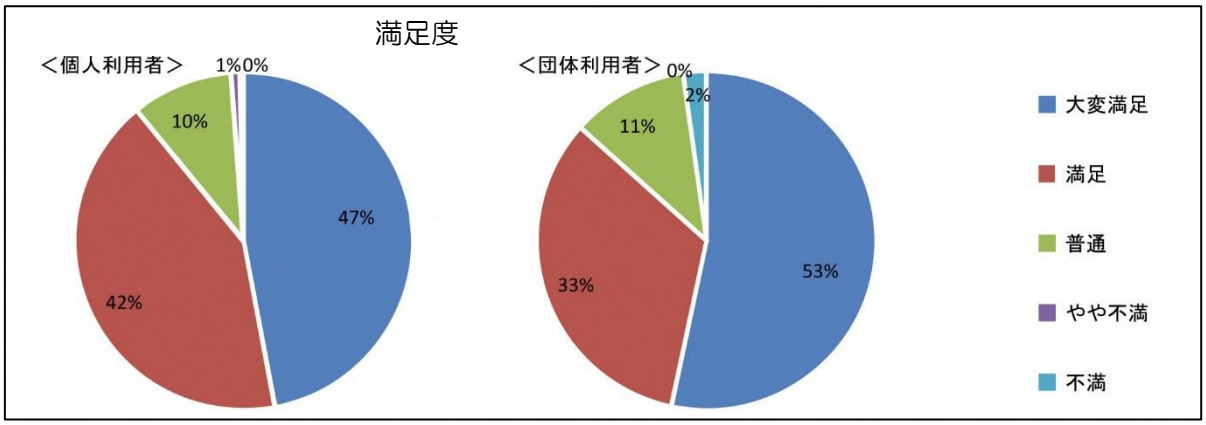


図　巻末 4-6　個人・団体別の満足度

⑦来訪歴と居住地

来訪歴については、どの季節でも約半数の方がはじめての来訪であることがわかります。居住地について、冬・春休みは市内からの来訪者が多いことに対して、夏休み期間中は、約半数の来訪者が市外からであることがわかります。

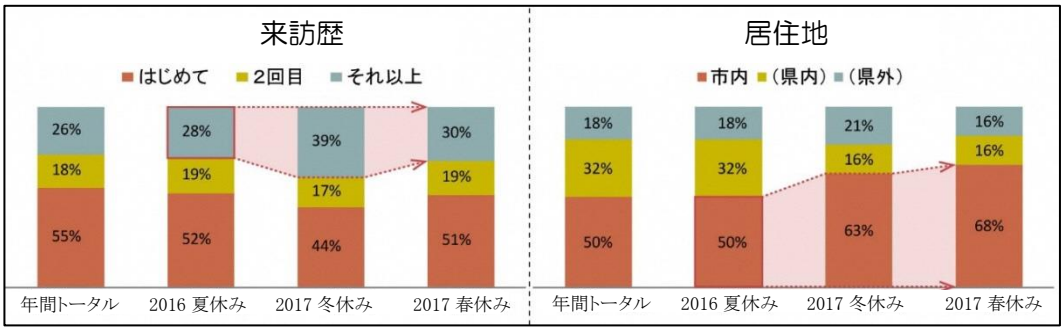


図　巻末 4-7　来訪歴と居住地

（２）イベント開催時のアンケート

①調査の概要

●調査期間　　縄文春まつり　２０１６（平成２８）年５月３日～５日

●有効回答数　３８３件

※各回答で得られた数をカウントした。また、回答が得られたサンプル数を示し、複数人の団体・グループからは、得られた回答数だけサンプル数としてカウントした。

②来訪者の構成と居住地

縄文春まつり開催時では、通年アンケートと同様に家族連れの割合が最も多く、特に３０～４０代と、５歳未満～小学生の組み合わせによる来訪者が多くなっています。来訪者の居住地については、市内からの来訪者が最も多く、中でも加曽利貝塚のある若葉区からの来訪者が多くを占めています。

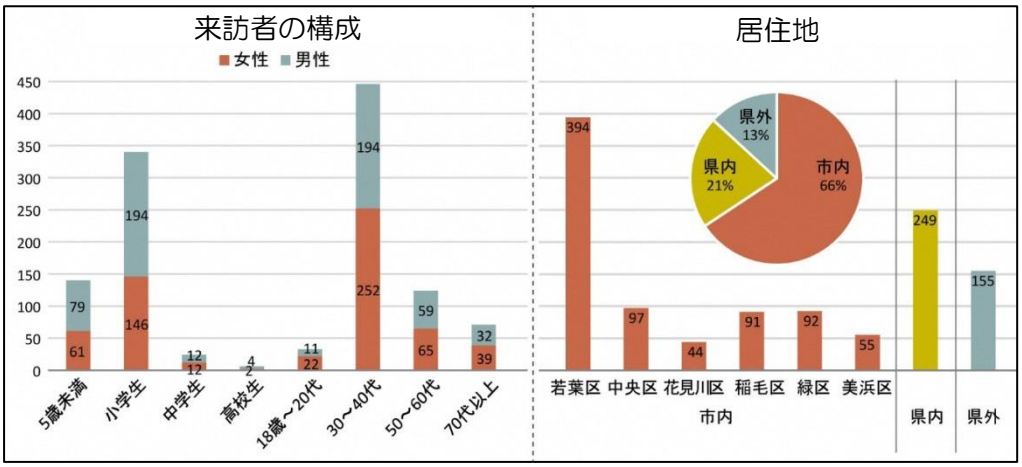


図　巻末 4-8　来訪者の構成と居住地（イベント開催時）

③利用交通機関と満足度

縄文春まつりでは、家族連れの来訪者が多かったためか、車を利用する方の割合が非常に多くなっています。鉄道・モノレール・バスの公共交通機関の利用は通年アンケートに比べると利用が少なくなっており、イベント時は車での利用が目立ちます。

博物館や野外観覧施設など、イベント時の拠点となる施設での催しの感想では、満足（満足・やや満足）が９割以上を占めました。満足と回答した方の割合が最も高かった項目は、「自然」であり、加曽利貝塚の豊かな自然環境が大きな魅力の一つであることがうかがえます。また、博物館や、旧大須賀家住宅において、やや不満であった方の主な意見として、トイレやベンチが少ないなど、利便性の不足があげられています。

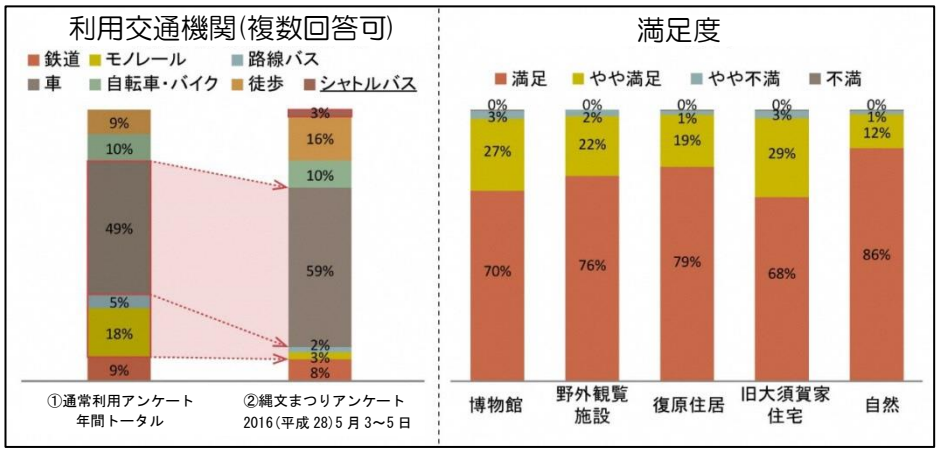


図　巻末 4-9　利用交通機関と満足度（イベント開催時）

⑤良かったプログラム・今後やってほしい体験メニュー

本アンケート項目は、自由記述であったため、意見の多かった項目についてまとめました。

縄文体験はいずれも好評で、火おこし・弓矢・土偶マグネットづくり・アクセサリー作り・アンギン編み体験の人気が高いことがわかりました。その他、イボキサゴスープの試食、スタンプラリー、加曽利貝塚ＰＲ大使かそりーぬのイベント（ステージ・撮影会）といった催し物も好評でした。

今後やってほしい体験メニューで意見の多かったものは土器づくりで、土偶マグネットづくりの人気を踏まえると、持ち帰りのできる工作にニーズがあることがうかがえます。

また、縄文時代や貝塚に関連する食材（貝やどんぐりなど）を使った料理や、土器や石器を使った調理等、生活体験系のイベントを求める意見も多くみられました。

その他、かそりーぬのグッズ販売や、かそりーぬのイベント（一緒に体験・史跡散策等）を求める意見もみられました。

5　ワークショップの実施結果

（１）開催概要

●**参加者**　NPO 法人加曽利貝塚博物館友の会、加曽利貝塚土器づくり同好会
加曽利貝塚ガイドの会、桜木・加曽利地区商工振興会、近隣自治会
若葉区役所、加曽利貝塚博物館、文化財課

●**開催回数**　全２回（時間はいずれも１３時３０分～１５時３０分の２時間）

●**実施方法**　３グループに分かれて、グループワークと成果発表を行い、意見交換を実施

表　巻末 5-1　ワークショップの概要

開催	第１回（２０１７（平成２９）年８月２４日）	第２回（２０１８（平成３０）年２月８日）
実施概要	①加曽利貝塚の魅力の再確認と共有 ②加曽利貝塚の整備や使い勝手における課題の共有	①全体方針・グランドデザイン・史跡整備計画への意見・要望 ②加曽利貝塚と地域との関わり方
成果	加曽利貝塚の魅力について、改めて認識するとともに、将来の整備にあたっての課題を探る。	素案に対する意見を伺うとともに、それぞれの立場における加曽利貝塚とのこれからの関わり方を考える。
開催の様子		
グループワークの結果		

（２）各グループの検討結果

表　巻末 5-2　各グループの主な意見

	主な意見		
第１回	グループ	加曽利貝塚の魅力の再確認と共有	加曽利貝塚の整備や使い勝手における課題の共有
	A	・縄文時代を感じられる風景、自然 ・ボランティアガイドによる案内	・園路、植栽、安全性の整備 ・史跡のＰＲ、アクセスの改善
	B	・加曽利貝塚の大きさ ・遺構の露出展示	・トイレや休憩スペースが不足 ・使い勝手の良い屋内活動場の整備
	C	・博物館の見学が無料 ・坂月川とその対岸にも動植物が豊富	・園内の放送設備の設置 ・史跡の分かりやすいコースの設定
第２回	グループ	全体方針・グランドデザイン・史跡整備計画への意見・要望	加曽利貝塚と地域との関わり方
	A	・縄文人の生活風景を視覚的に体験 ・開発と自然保全のバランス	・公園管理として周辺住民の参加を検討 ・地元商店による土産物の開発
	B	・坂月川対岸と史跡とのアクセス改善 ・対岸地域でのアクティビティの整備	・地元小学校との積極的な交流 ・地元と連携した新規事業の開発
	C	・コンセプト・魅力の明確化 ・貝塚の見せ方など、遺構の展示方法	・地域との継続的な対話 ・関連団体との密な連携

■ワークショップにおける主な意見（第１回）

・縄文時代から続く景観が今も残っており、縄文を感じられる風景や自然環境が魅力。
・７％しか発掘されておらず、これからの発掘調査で新しい発見に期待できる。
・野外観覧施設での遺構露出展示は、周辺に同様の施設が無く、生の遺跡を見られるインパクトがある。
・施設が老朽化しており、特にトイレや園路をバリアフリー化する必要がある。
・北貝塚と南貝塚が一体となった全体像が感じられる展示と、それを保存活用するための植栽を管理する必要がある。
・史跡へのアクセスの不便や案内が少ないため、改善する必要がある。

■ワークショップにおける主な意見（第２回）

・自然環境を活かしたアスレチックと、自然観察や野鳥観察などは相反する事業であるため幅広い活動に対応できるようにしてもらいたい。
・利便性と縄文らしさとのバランスを保ってもらいたい。
・史跡と対岸地域からの動線として、ゴンドラやロープウェーなどがあるとよい。
・視覚で縄文の体験ができる復元整備があるといい。
・周辺で活動している団体はたくさんあるため、行政と協力していくためにも対話を大事にしてもらいたい。
・加曽利貝塚をアピールする土産物など、地元で開発して販売していけると良い。

（３）加曽利かわらばん

ワークショップ実施後に意見をとりまとめた会議録を「加曽利かわらばん」として作成し、参加者に配布しました。

加曽利かわらばん

2017.8号

第１回ワークショップの結果報告

no.1

第１回加曽利貝塚グランドデザイン及び史跡整備基本計画に関するワークショップを、平成29年8月24日（木）13時30分～15時30分@加曽利貝塚博物館にて実施しました。参加者20名による活発な意見交換がなされました。

01 当日のプログラム

関係団体の挨拶を文化財課の森本さんから頂きました。

今回のWSの目的、条件を事務局側からPPTで説明。

グループにわかれテーマについて話し合いました。

グループの意見を代表者が発表。

最後に本日出た意見を簡単にまとめました。

02 グループに分かれた話し合いの内容

	①魅力の再確認	②整備や課題の共有
A班	〈加曽利貝塚〉 ・日本最大級の縄文遺跡 ・施設は充実している ・発掘調査も充実 ・5千年前の風景や植生が残っている 〈自然〉 ・背景の森林、坂月川も合の自然が豊かで四季の移ろう風景が素晴らしい ・地下水が豊く水割りにも最高 〈親しみやすさ〉 ・ガイドよりの案内や貝層断面の展示がわかりやすい ・竪穴式住居で縄文の生活体験ができる ・すべての施設が無料でできる ・子ども学習体験が無料で提供的	〈安全性・回遊性の向上〉 ・園路の凹凸や園内木の案内板不足を改善し、誰もが見学しやすい空間に ・超遠ーズに合ったり見学者を楽しませる 〈施設〉 ・トイレ数が不足している ・弁当を広げられる休憩所や食事処が欲しい 〈地元との関わり〉 ・増加する観光客によって静かな生活が保障できるか不安 ・周辺住民との交流が早急に必要 ・地域住民にとって残るのは豊富な緑は残ってほしい
B班	〈加曽利貝塚〉 ・縄文時代の風景を地形や自然、土器づくり活動から感じられる ・発掘調査も充実で縄文時代の部分が大きい 〈自然〉 ・敷地内にある大規模な緑のオープンスペース ・人工物が少ない 〈展示方法〉 ・貝層断面の展示が素晴らしい ・大谷口の遺構表示が分かりやすい 〈活動空間〉 ・博物館の広場や旧大須賀家住宅とつながりのイベントを行える場所がある	〈安全性・回遊性の向上〉 ・歩きにくい砂利道や、駅から園内までの案内板不足などを改善すべき ・バリアフリー化した見学ルート整備 〈施設〉 ・現在は暗い感じで、車を乗り入れられないので、車を乗り入れられなくなってしまい不便 ・魅力に欠ける ・トイレスペースが少ない ・飲食物の販売や食事処、休憩スペースが欲しい ・ミュージアムショップの品ぞろえが欲しい ・北貝塚と南貝塚の全体が、木の繁茂によって見通せない
C班	〈加曽利貝塚〉 ・日本最大級の縄文遺跡で、手入れされており、自然豊かで人がたくさんあつまり、当時の生活や文化を体験できることができる 〈自然〉 ・豊かな生態系を形成している ・緑豊かで涼しく、空気が良い 〈感じる〉 ・貝層断面や住居跡などと遺跡の内側や出土品が見られることができる ・縄文時代を学べる	〈安全性・回遊性の向上〉 ・駅から遠いので、シャトルバスや駐車場などとアクセスの再検討が必要 ・分かりやすい見学コースの再検討が必要。各ポイントに名前を付け、目玉をピックアップして設定してはどうか 〈施設〉 ・地元の品や縄文グッズを扱うミュージアムショップがあると良い ・2つの貝塚を立体的に見られる工夫を検討してほしい ・見せ方を改善し、貝塚の大きさを視覚的に訴える展示方法にしたい 〈地元との関わり〉 ・森を保護しながら遺跡を活かすメリットある方向へ

03 話し合いのまとめ

魅力の再確認、整備や課題を共有することで、共通の意見が見えてきました。

①加曽利の魅力

- 日本最大級の貝塚
- 発掘が7％で今後が楽しみ
- 縄文の風景が地形や自然、活動から感じられる
- 展示方法がユニークで分かりやすい
- ガイドの案内が分かりやすい

②加曽利の課題

- 園路の歩きやすさやユニバーサルデザインへの対応
- トイレや案内サイン等のサービスや施設の少なさ
- 食品やお土産の販売がない
- 日本最大級の貝塚を感じることが出来ない→自然保護と貝塚遺構の見せ方にメリハリを付ける
- 効果的なインバウンド観光PRの方法
- 交通アクセスの改善
- 老朽化施設の改善

▼

これらの意見を踏まえて、グランドデザイン及び史跡整備基本計画を立案します。

04 次回のご案内

加曽利貝塚グランドデザイン及び史跡整備基本計画の第2回ワークショップを開催します！

日程の詳細は別途お知らせ予定です。

加曽利貝塚グランドデザイン及び史跡整備基本計画　ご意見・お問い合わせ先：千葉市　教育委員会　文化財課　TEL 043-245-5960 ／ FAX 043-245-5993

図　巻末5-1　第１回ワークショップのかわらばん

加曽利かわらばん

2018.2号

第2回ワークショップの結果報告

第2回加曽利貝塚グランドデザイン及び史跡整備基本計画に関するワークショップを、平成30年2月8日(木)13時30分～15時30分@加曽利貝塚博物館にて実施しました。参加者19名による活発な意見交換がなされました。

01 当日のプログラム

1 教育委員会の挨拶を文化財課の森木さんから頂きました。

2 ワークショップの目的と前回の振り返りを行いました。

3 グランドデザインや史跡整備の案を説明しました。

4 グループワークを行い、発表を行いました

5 全体での意見交換を行い、まとめを行いました。

02 グループに分かれた話し合いの内容

①案に基づく意見交換 ②エリアの価値向上

A班

〈おもったこと〉
・千葉市には遺跡が多数あるので、貝殻見たくらいでは感動しない。
・縄文人の村や生活には興味がある。
・体験や宣伝を通して、まずは知ってもらうのが大事である。
・はじめは千葉市、次は千葉県と来てくれる人が増えていくといい。

〈導入したいコト・モノ〉
・竪穴住居で、縄文人の村の生活の様子を実際に再現する。
・アピール映像を、youtube 等の動画掲載サイトに載せる。
・縄文土器を各区役所に展示する。
・竪穴式住居で縄文の生活体験などいろいろな学習体験ができる。

〈導入したいコト・モノ〉
・小学校等の子供達が描いた縄文に関する絵を飾る。
・貝塚のを剥してアクリル板で固めて見やすくする。
・特別緑地を利用したアスレチックアドベンチャー施設。

〈体験学習〉
・特別緑地で、バードウォッチングや昆虫観察などの自然体験学習。
・加曽利人より前の時代の炉を発見。
→炉を復元して焼肉や燻製体験
・河原に大豆の原種が生えている。
→豆入りご飯を炊くなどの体験

〈コミュニティの形成〉
・犬の飼い主と行政の両者が得する仕組み。

〈魅力のアピール〉
・地域にアピールする縄文クッキーなどの品物や土産物の開発・販売
・あえて不便につくり、自然の部分も残す。
・目に見える土器の配置

〈場所による集客〉
・環境や予算を考慮し、自転車の誘致を増やす。
・緑地と貝塚を核とした「貝塚サイクリングロード」「縄文スタンプラリー」

〈影響力による集客〉
・イベントごとに有名人を呼ぶ。
・マスコミの力を借りる。

〈イベントによる集客〉
・地域の祭りやラジオ体操等、また今は廃れてしまった風習や歳時記に関わるイベントの実施
・豆作りを親子ボランティア等で行う

〈場所による集客〉
・老若問わず親しめるグランドゴルフ場等のグリーンを設ける
・犬を散歩している人が利用するコーナーやスペースを設ける。
・コミセンや図書館、子供の遊び場といった、地域住民が毎日訪れたくなる場所とする。

B班

〈おもったこと〉
・学習か観光のどちらかにコンセプトをまとめるべきである。
・加曽利ならではの特徴を考えて、将来像を持つべきである。

〈導入したいコト・モノ〉
・縄文時代の樹木を用いて森の景色と貝塚の姿の両者を生かす整備。
・他の博物館では扱っていない「塩」を扱ってはどうか。
・千葉駅からの直通バスによるアクセスの改善。
・アスレチックや縄文の森など、植義を用いた具体的な公園やハイキングコースの設計。

〈コミュニティの形成〉
・犬の散歩の方々や昆虫サークルの方々に各会に所属してもらい、開発計画を話し合いたい。
・保健師に週一度来てもらうなどして高齢者の集える空間を形成する。
・開発によって、静かな住環境が壊されることが心配である。
・開発により商店街が活性化する。

〈魅力のアピール〉
・木漏れ日の素敵な場所で土器づくりをしている。
・春の縄文祭りで、トキドキ土器のプレゼントを実施予定。
・専門家を呼ぶ等、土日の来館者へのガイドが手薄なことへの対策を打つ。

C班

03 話し合いのまとめ

加曽利の魅力をさらに引き出す意見や、アイディアがたくさん挙がりました。

①今回の案に対して

・学習か観光のどちらかにコンセプトをまとめるべき。
・加曽利ならではのコト・モノを用いた、体験学習イベントを行ってはどうか。
・ただの貝塚ではなく、縄文時代の暮らしをみせる。
・貝塚を見やすく整備。
・直通バスによりアクセス性を高める。

②加曽利と地域

・犬を散歩する人など様々な人と繋がり、地域一丸となって計画に取り組む。
・広報やイベント、新しい施設などを活用し、たくさんの人に加曽利に来てもらう。
・「トキドキ土器」のプレゼントや「縄文クッキー」のような、地域の土産品を開発。
・自然観察などに関する専門家を呼び、ガイド不足の問題を解決する。
・緑地と貝塚を自転車で繋ぐ。

これらの意見を踏まえ、グランドデザイン及び史跡整備基本計画の最終案を作成します。

04 今後の進め方

①パブリックコメントの実施
②グランドデザインの策定
③地域の意見・関わり方

本日のワークショップの内容を踏まえつつ、今後も継続的にご意見を頂きながら、進めます。

ご意見・お問い合わせ先：千葉市 教育委員会 文化財課 TEL 043-245-5960 ／ FAX 043-245-5993

図 巻末5-2 第2回ワークショップのかわらばん

６　類似施設の先行事例調査の結果

（１）千葉市内

千葉市における加曽利貝塚の文化財及び文化観光施設としての現状を把握するために、加曽利貝塚の類似関連施設として、①史跡、②博物館及び博物館類似施設（動物園、植物園等の博物館法上の生態園を含む）の状況について情報収集を行い、比較検討を行いました。

①史跡

千葉市内には、国指定史跡の貝塚が５件（加曽利貝塚を含む）、県指定史跡の貝塚が２件、市指定史跡の貝塚が１件存在します。これらの中で史跡整備を実施し、公開を行っているのは加曽利貝塚のみです。他は地域の公開されているものの、貝層表示や住居跡の復元等、史跡としての整備は行っていません。観光情報を提供するサイト（トリップアドバイザー等）の口コミ投稿等では、加曽利貝塚よりも外観を天守建築に模した千葉市立郷土博物館のある千葉城跡（猪鼻城跡）の方が、認知度が高くなっています。このため、一般的には歴史的な価値評価よりも分かりやすいモニュメントの有無が、認知度に与える影響が左右する状況がうかがえます。

表　巻末 6-1　史跡に指定されている市内の貝塚

区分	名称/所在地	所有者・管理者	指定年度	現況及び／公開状況
国史跡	加曽利貝塚/若葉区桜木町	千葉市ほか	1970 年	史跡公園／公開
	月ノ木貝塚/中央区仁戸名町	千葉市ほか	1977 年	緑地広場／公開
	荒屋敷貝塚/若葉区貝塚町	千葉市ほか	1978 年	緑地広場／公開
	犢橋貝塚/花見川区さつきが丘	千葉市	1981 年	緑地広場／公開
	花輪貝塚/若葉区加曽利町	法人	2006 年	非公開
県史跡	長谷部貝塚/緑区平山町	袖ヶ浦カンツリー倶楽部	1960 年	非公開
	東寺山貝塚/若葉区みつわ台	千葉市	1979 年	公園／公開
市史跡	滑橋貝塚/若葉区小倉町	個人所有	1981 年	山林／公開

②博物館等

２０１６（平成２８）年度の千葉市の統計データから、２０１５（平成２７）年度の千葉市の博物館及び博物館類似施設の入場者数を次の表にまとめました。市内で最も多くの人を集めているのは千葉市動物公園で、年間約５５万人の入場者を集めています。園内で動物と触れ合える他、交通利便性が高いこと、広い駐車場を備えていること、水遊びやバーベキューができることもあり、家族で１日楽しめる場所となっていることが人気の理由であると考えられます。

次に人気が高いのが千葉市科学館です。科学を楽しく学ぶための体感・体験メニューが充実しており、特に小学生からの人気が高く、社会科見学等の他、家族で訪れる人が多くみられます。

これらの博物館及び博物館類似施設の中で、加曽利貝塚博物館は総数に比して団体入館者の比率が約３８％と高くなっています。また、１団体の人数は約８２人であり、千葉市動物公園団体入場者の１団体人数とほぼ等しく、国の学級編成基準は小・中学校で４０人であることから、両施設の団体入場者は小・中学校の社会科見学等が主流であることが推測されます。

千葉市動物公園入場者の総数は、加曽利貝塚博物館の約２１倍でありますが、団体入場者数は１．５倍であることから、現在の加曽利貝塚博物館が学校単位の社会科見学場として一定の需要は満たしているものの、千葉市動物公園のように家族で訪れる層の需要を満たしていないと考えられます。

表　巻末 6-2　千葉市内の博物館及び博物館類似施設の入場者数

名　称	床延面積	利用者数					
		総数	一般	団体			無料入館者数
				団体数	人員	割合	
加曽利貝塚博物館	約 1,700 ㎡ ※埋文センター含まず	26,230	11,466	121	9,981	38%	4,783
郷土博物館	2,416 ㎡	45,051	36,390	163	3,958	9%	4,703
市立美術館	17,499 ㎡ ※中央区役所との複合施設	162,742	162,742	－	－	－	－
埋蔵文化財調査センター	1,833 ㎡	3,478	－	－	－	－	入館無料
市民ギャラリー・いなげ	－	51,658	－	－	－	－	入館無料
稲毛記念館	1,855 ㎡ ※日本庭園 4,400 ㎡	113,159	－	－	－	－	入館無料
稲毛民間航空記念館	443 ㎡	66,522	－	－	－	－	入館無料
三陽メディアフラワーミュージアム	3,939 ㎡	90,962	－	－	－	－	49,376
科学館　常設展	約 13,000 ㎡ ※複合ビルの７～10 階他	213,563	－	－	－	－	－
プラネタリウム		134,119	－	－	－	－	－
企画展		55,910	－	－	－	－	－
県立中央博物館(本館)	15,334 ㎡	128,705	120,652	188	8,053	6%	107,681
県立美術館	10,663 ㎡	122,573	120,969	－	1,604	1%	－
動物公園	339,722 ㎡	555,359	268,359	177	14,673	3%	257,654

※入場者数は H28 千葉市統計書を参考に記載（H27.4.1-H28.3.31）　－：不明

※県立中央博物館の入場者数は年報 28(平成 27 年度)より記載（H27.4.1-H28.3.31）

※面積は延床面積（動物公園は公園面積、駐車場面積は約 47000 ㎡）小数点以下は切り捨て

（２）千葉県内

①史跡公園

千葉県内の類似関連施設として、加曽利貝塚と同じく隣接地または敷地内に博物館やこれに相当する展示施設（ガイダンス施設も含む）が存在する史跡、または歴史的遺産のある公園及び緑地広場を備えた施設の状況について調査を行いました。

利用者数では、房総のむらの２５万人が最も多いことがわかりました。房総のむらは、古代～近現代までの人々の生活の移り変わりを体験することができる野外博物館で江戸時代の町並みや農家が復元された「ふるさとの技体験エリア」での体験プログラムなどが人気となっています。また、風土記の丘エリアでは当日受付の火おこしや勾玉つくりなど気軽に楽しめるものから、事前予約制の縄文料理等の体験など、様々な生活体験プログラムが用意されています。

加曽利貝塚の敷地面積は、房総のむらのような複合施設を除く単体の史跡公園としては県内最大級です。公園利用者は把握できていませんが、博物館入館者数で比較すると、公園面積０．２３ｈａの船橋市飛ノ台史跡公園とほぼ同数となります。加曽利貝塚が恵まれた緑地環境を活用していくことで、利用者のさらなる増加に繋がる可能性があります。

表　巻末 6-3　千葉県内の展示施設を備えた史跡公園等の利用者数

名称/所在地	概　要		利用者数	備考
	史跡公園	博物館等		
加曽利貝塚縄文遺跡公園 博物館 /千葉市	＜史跡公園＞約 15ha ドーナツ形の縄文時代中期の北貝塚と、馬蹄形の後期の南貝塚が連結した日本最大級の貝塚。野外観覧施設（竪穴住居跡群、貝層断面）、復元集落が整備されている。	＜博物館＞ 約 1,700 ㎡ 加曽利貝塚からみつかった縄文土器・石器・動物・魚や人骨等を展示、東京湾周辺に住んでいた縄文時代の人々の生活を解説。	＜博物館＞ 26,230 人	H28 千葉市統計書 (H27.4.1-H28.3.31)
堀之内貝塚公園 市立市川考古博物館 /市川市	＜史跡公園＞約 3.2ha 縄文時代晩期の馬蹄形貝塚で、一般市民に広く啓発する事を目的に公園として環境整備された。	＜博物館＞ 1,513 ㎡ 市内の遺跡(先土器～古墳時代)の考古資料や下総国府・国分寺関連の史料･情報を収集、保管、展示。	＜博物館＞ 44,000 人	H23 年度見込み ※歴史博物館も含む
飛ノ台史跡公園 博物館 /船橋市	＜史跡公園＞約 0.23ha 飛ノ台貝塚から出土した住居跡、貝塚、炉穴等をレプリカで復元展示。	＜博物館＞1,570 ㎡ 飛ノ台貝塚の土器や石器、貝塚や竪穴住居、縄文人の生活をパネルや模型、船橋市内の遺跡の遺物等の展示。	＜博物館＞ 25,796 人	H28 年版船橋市統計書 (H27.4.1-H28.3.31)
上総国分尼寺跡展示館 /市原市	＜史跡＞約 3.7ha 全国有数の規模を誇る国分尼寺で、中門と回廊が復元公開。	＜展示館＞325 ㎡ 映像や模型、出土品の展示。	＜展示館＞ 12,605 人	H28 市原市統計書 (H27.4.1-H28.3.31)
千葉県立房総のむら /印旛郡栄町	＜風土記の丘エリア＞ 約 32ha　※総面積約 51ha 房総地方の文化理解を深めるために、武家・商家・農家の復元展示、伝統的な生活様式や技術の体験、四季折々のまつりや演武、民俗芸能の上演、企画展を実施。	＜資料館＞2,582 ㎡ 県内各地から出土した考古資料を収蔵・展示。房総の古墳と古代寺院の資料、縄文時代～歴史時代の集落からの出土品を中心に生活の変遷を展示。	250,000 人	H27 千葉県観光入込調査報告 (H27.1.1-12.31)

※史跡公園は敷地面積、博物館等は延床面積

②博物館

千葉県内で年間１０万人以上の利用者がいる歴史民俗系博物館について調査を行い、その集客要因を調べてみました。なお、県立中央博物館については千葉市内の博物館及び博物館相当施設においてリストに挙げているため、この一覧からは除外しています。

利用者数が最も多かったのは国立歴史民俗博物館です。延床面積が３５，０００㎡以上あり、施設面の充実が集客の要因の一つであると考えられますが、博物館を学習の場として利用してもらうためのプログラムに力を入れており、教員の研修受入れなども行っています。

県立中央博物館大多喜城分館では、ローカル線として人気が高いいすみ鉄道の大多喜駅から近いことや、天守閣を模した博物館屋上からの眺望の良さ、桜や梅等の季節の花等が、観光資源として一定の評価を得ており、圏央道、いすみ鉄道とセットにした旅行会社の観光企画コースに組み込まれています。

県立関宿城博物館は江戸川・サイクリングロードの休憩地に隣接しており、観光スポットとしても利用されています。

市立博物館では浦安郷土博物館と館山市立博物館分館（渚の博物館）が約１１万人の利用者を集めています。

浦安郷土博物館は１９５２（昭和２７）年ごろの浦安を再現した野外展示「浦安のまち」や、べか舟製造の実演等、体感・体験を重視した展示が人気となっています。

館山市立博物館分館（渚の博物館）は「渚の駅たてやま」内にあることも集客の一因になっていると考えられます。

表　巻末 6-4　千葉県内で利用者数の多い博物館

名称/所在地	延床面積	概　要	利用者数	備考
国立歴史民俗博物館 /佐倉市	35,548 ㎡	日本の歴史と文化について総合的に研究・展示する歴史民俗博物館。 原始・古代から現代に至るまでの歴史と日本人の民俗世界をテーマに、実物資料に加えて精密な複製品や学問的に裏付けられた復元模型などを積極的に取り入れ、日本の歴史と文化について、だれもが容易に理解を深められるよう展示。	190,000 人	H27 千葉県観光入込調査報告書 (H27.1.1-12.31)
県立中央博物館 (大多喜城分館) /夷隅郡大多喜町	10,971 ㎡	城郭様式の建物で、房総を中心とした中世・近世の城郭、武器・武具・調度品・古文書及び城下町の生活資料等を展示。総南地方の地域博物館として教育機関と連携をとりながら、地域文化センターとしての役割も兼ね備え、当時の全般的な調査研究を行っている。圏央道いすみ鉄道とセットにした旅行会社企画に用いられる等、観光資源としての役割が高い。	104,577 人	年報 28(H27 年度) (H27.4.1-H28.3.31)
県立関宿城博物館 /野田市	2,172 ㎡	「河川とそれに関わる産業」をテーマに、利根川流域に生きた人々の生活の歴史を紹介。利根川流域における洪水・治水の歴史や、河川によって育まれた産業や文化、近世の関宿藩に関する展示物を展示。城郭の外観で江戸川・サイクリングロードの休憩地に隣接するため観光スポットとして知られている。	108,572 人	H27 年度千葉県立関宿城博物館の概要と活動実績 (H27.4.1-H28.3.31)

浦安郷土博物館 /浦安市	4,917 ㎡	漁師町時代から築き上げられてきた浦安特有の文化を再発見できる。「母なる海」が育てた浦安の自然・歴史・文化を展示。海苔すきや貝むき、べか舟の乗船体験、舟大工の作業所で浦安市舟大工技術保存会による製造作業が見学できる。幻の魚、「アオギス」をはじめ東京湾の魚もいる。	110,000 人	H27 千葉県観光入込調査報告書 (H27.1.1-12.31)
館山市立博物館分館 (渚の博物館) /館山市	3,557 ㎡	本館は戦国大名里見氏の居城跡である城山公園内にあり、史実の里見氏をメインに安房地方の歴史や民俗資料を収集・展示。天守閣形式の館山城（八犬伝博物館）では、『南総里見八犬伝』の各種資料の展示・紹介。 渚の博物館（渚の駅たてやま内館山市立博物館分館）は房総半島各地の海と生活に関わる資料を展示。館山港交流拠点「渚の駅 たてやま」内にある。	110,000 人	H27 千葉県観光入込調査報告書 (H27.1.1-12.31)

（３）関東圏

関東圏で加曽利貝塚と同じく博物館等の展示施設を備えた原始・古代の史跡公園の状況を調査しました。文化庁の支援事業で史跡整備を行い、ガイダンス施設等の展示施設を建設した例が多くみられました。

これらのうち、１０万人を超える集客があったのは、大塚・歳勝土遺跡公園、さきたま古墳公園、常陸風土記の丘でした。

大塚・歳勝土遺跡公園は横浜市歴史博物館が隣接しており、この博物館は横浜市の総合歴史博物館で原始・古代から近現代までの横浜の歴史を出土遺物、模型、映像等でビジュアルに学べることから、市内の小・中学校の利用が多くなっているようです。横浜市営地下鉄線センター北駅より徒歩５分というアクセスの良さも集客数に現れていると考えらます。

さきたま古墳公園、常陸風土記の丘は共に面積が大きく、広い駐車場を備えています。古墳や古代住居といった歴史的要素とは別に、桜、菜の花、ハス等の季節の花やキャンプ場（常陸風土記の丘）等のレクリエーション的要素を備えていることも共通しています。

さきたま古墳群は丸墓山古墳が忍城水攻めの際に本陣として利用されたが、これを描いた小説『のぼうの城』が人気を博し映画化（２０１２（平成２４）年公開）されたことから、訪れる観光客も増加しているようです。

その他の史跡公園は多くが５万人以下の集客に留まっていますが、この中でも下野国分寺・国分尼寺跡で開催される「天平の花まつり」が毎年２０万人近くの集客を生んでいます。「天平の花まつり」は毎年３月下旬から５月初旬にかけて開催され、下野市の一大イベントとなっています。

他の史跡公園でも利用者数にカウントされてはいませんが、史跡を利用した定期的なイベントが行われているところが多く、史跡の認知度向上に貢献しているようです。

また、上毛はにわの里公園はヒマワリやコスモス、根古谷台遺跡はニッコウキスゲ、岩宿の里公園は石器が出土した地層に連なる丘陵（稲荷山）のカタクリ等の花の時期には、多くの人が訪れる場所になっています。

これらの人数を含めれば、史跡公園の利用者数は現在の博物館等の入館者ベースに比べて少なくとも２倍以上になることが予想され、言い換えれば、一般的な史跡公園では博物館等のみの集客数は、２万人～５万人程度に留まるものが多いと推定できます。

これには、博物館等の施設面の違いはあまり反映されていないと考えられます。延床面積約２０００㎡のかみつけの里博物館の年間入館者数は約３万人ですが、延床面積４２０㎡の水子貝塚資料館の入館者数は４万２０００人となっています。これはかみつけの里博物館が有料であるのに対し、水子貝塚資料館は無料であることや、水子貝塚公園の周囲は住宅地であり人口密度が高いこと等が反映されていると考えられます。

博物館等で相当数の集客を行うためには、横浜市歴史博物館のように約１００００㎡規模の延床面積と企画展の充実が必要であると考えられます。

ただし、加曽利貝塚縄文遺跡公園の現在の面積は約１５ｈａで周辺エリアまで含めれば、関東圏の中でも有数の規模となることが想定でき、千葉市の人口が約９７万人であることや、人口密度の高い東京都に隣接していることなどから、関東圏の他の史跡公園に比較して、条件的には恵まれた位置にあると言えます。

表　巻末 6-5　関東地方の博物館等の展示施設を備えた原始・古代の史跡公園

名称/所在地	概　要		利用者数	備考
	史跡公園	博物館等		
大塚・歳勝土遺跡公園 横浜市歴史博物館 /神奈川県横浜市	＜遺跡公園＞約 5.5ha 横浜市歴史博物館の野外施設として国指定史跡大塚･歳勝土遺跡の竪穴式住居や方形周溝墓を復元整備した公園。江戸時代の旧家を移築した都筑民家園や工房、広場等もある。センター北駅から徒歩 10 分弱。	＜博物館＞9,269 ㎡ 開港期までを中心とする横浜の歴史に関する資料を収集、保管、展示、及び調査研究をして、市民の利用に供するとともにその学習、調査研究等に資する。	＜博物館＞ 約 168,000 人	H28 横浜市統計書 （H28.4.1-H29.3.31）
三殿台遺跡（三殿台考古館） /横浜市	＜史跡＞約 1ha 縄文・弥生・古墳時代のムラの跡で、3 棟の復元住居と発掘された遺構の実物を展示する保護棟を整備・公開。	＜考古館＞273 ㎡ 三殿台遺跡から出土した遺物を中心に展示を行っている。	＜考古館＞ 約 16,600 人	H27 横浜市統計書 （H27.4.1-H28.3.31）
さきたま古墳公園 県立さきたま史跡の博物館 /埼玉県行田市	＜史跡公園＞約 37.5ha 埼玉古墳群と調和の取れた観賞・保護、及び散策を目的に整備された公園。	＜博物館＞2,498 ㎡ 埼玉古墳群・出土品、県内の遺跡、関係資料の収集・保管・調査研究、展示。	＜博物館＞ 約 113,700 人	H27 県観光統計 （H26.4.1-H27.3.31）
水子貝塚公園 水子貝塚資料館 /富士見市	＜史跡公園＞約 4ha 縄文時代前期を代表する貝塚で、遺跡の保存と活用のため公園として整備。5 棟の竪穴住居や外側に縄文の森を復元。展示館や資料館を併設。	＜資料館＞403 ㎡ 市内の各遺跡から出土した考古資料が展示、富士見市の原始・古代について解説。	＜資料館＞ 約 42,000 人	H24 資料館活動報告 （H23.4.1-H24.3.31）
上高津貝塚ふるさと歴史の広場 土浦市立考古資料館 /茨城県土浦市	＜史跡公園＞約 5ha 縄文時代後・晩期の遺跡で、竪穴住居・掘立柱建物・大型炉等を復元。貝塚の断面展示等、考古資料館が整備されている。	＜資料館＞1,800 ㎡ 上高津貝塚と縄文人の生活の様子を動画とジオラマによる視聴覚展示や体験展示を取り入れながら解説。	＜資料館＞ 約 28,000 人	H28 統計つちうら （H27.4.1-H28.3.31）
大串貝塚ふれあい公園 水戸市埋蔵文化財センター /水戸市	＜史跡公園＞ 貝塚の周辺を整備した公園で、巨人像や貝層断面観覧施設、縄文人の暮らしを紹介する埋蔵文化財センター等を併設。	＜センター＞ 市内の発掘事業等の管轄の他、大串貝塚や縄文人の暮らしを展示。	＜センター＞ 約 40,000 人	H27 水戸市統計年報 （H27.1.1-12.31）

常陸風土記の丘 /石岡市	＜常陸風土記の丘＞ 石岡市の歴史的財産を活用し、歴史・伝承・体験学習・スポーツ・コミュニティーなどの余暇のための施設。長屋門（旧内田家）の案内所、遺跡の一部を復元した鹿の子史跡公園・古代家屋復元広場（有料）等がある。水際公園は季節ごとに、桜、ゆり、ハス等が楽しめる。	＜展示研修施設＞2,458㎡　石岡市内で発掘された貴重な埋蔵文化財、遺物を遺跡別に展示しており、古代から近世にいたる石岡市のあゆみを概観できる。 常設展示を中心に、企画展・特別展も行っている。	145,011 人	H27 統計いしおか （H26.4.1-H27.3.31）
おやま縄文まつりの広場 ※寺野東遺跡 寺野東遺跡資料館 /栃木県小山市	＜史跡公園＞約 2.9ha 国史跡寺野東遺跡の環状盛土遺構や水場遺構、石敷台状遺構が復元され、資料館が併設されている。	＜資料館＞ 寺野東遺跡の内容を展示・紹介する。	約 5,000 人	H28 市実施計画 H27 年度実績
うつのみや遺跡の広場 ※根古谷台遺跡 /宇都宮市	＜史跡公園＞約 1.76ha 日本最大規模（1 号長方形大型建物）を誇る復元建物と、埋葬の諸形態などを展示した資料館が整備されている。	＜資料館＞249 ㎡ 根古谷台遺跡から出土した縄文時代の遺物や埋葬の形態などを展示。	17,218 人	平成 25 年度実績
下野国分寺・国分尼寺跡 しもつけ風土記の丘資料館 /下野市	＜下野国分寺跡＞約 6.2ha ＜天平の丘公園＞約 11ha ＜国分尼寺跡＞約 2.5ha 国分尼寺跡は、主要伽藍の基壇と礎石が復元表示されている。尼寺跡は金堂、講堂、回廊の範囲を盛土と芝生で表示し、金堂礎石を復元表示している。史跡内には薄墨桜が植栽されている。	＜資料館＞1,036 ㎡ 隣接する国指定史跡下野国分寺跡・尼寺跡、古墳等の史跡、出土した資料の解説・学習施設。	約 220,000 人 ＜資料館＞ 約 19,300 人	H28 天平の花まつり来場者数 H28 年度 入館者数
下野薬師寺跡ふるさと歴史の広場 下野薬師寺歴史館 /下野市	＜史跡公園＞約 2.4ha 回廊の一部が復元され、史跡公園として活用。	＜歴史館＞384 ㎡ 瓦等の出土遺物、下野薬師寺に関る文献史料、復元模型等の展示、映像等による下野薬師寺の歴史の解説。	約 10,000 人	
上毛はにわの里公園 ※保渡田古墳群 かみつけの里博物館 /群馬県高崎市	＜史跡公園＞約 13ha 国指定の保渡田古墳群が整備・石棺が展示され、かみつけの里博物館、土屋文明記念文学館が併設されている。	＜博物館＞約 2,000 ㎡ 榛名山東南麓で出土した 5 世紀後半の人物・動物埴輪や当時を再現した模型を展示。	＜博物館＞ 約 30,000 人	H29 市教育行政方針 （H27.4.1-H28.3.31）

毛野国白石丘陵公園 藤岡歴史館（埋蔵文化財収蔵庫） /藤岡市	＜史跡公園＞約 4ha 国指定史跡七輿山古墳と白石稲荷山古墳を結び、古墳群の保存とレクリエーション・憩い・学習の場を提供する。	＜歴史館＞ 市の埋蔵文化財収蔵庫で、地域の考古遺産を収蔵・展示。白石古墳群や本郷埴輪窯址・猿田埴輪窯址に関する常設展示。	＜歴史館＞ 10,341 人	H29 藤岡市統計書 （H28.4.1-H29.3.31）
岩宿の里公園 岩宿博物館 /みどり市	＜史跡公園＞約 18ha 旧石器時代の遺跡で、地層は岩宿ドームとして保存され、見学できる。	＜博物館＞ 出土石器の展示。	＜史跡公園＞ 23,500 人 ＜博物館＞ 21,500 人	みどり市統計 （H18.4.1-H19.3.31）
上野国分寺跡 上野国分寺館 /前橋市・高崎市	＜史跡公園＞約 6.2ha 金堂・塔の基壇や築垣が復元され、ガイダンス施設を併設。	＜国分寺館＞180 ㎡ 1/20 スケールの七重塔の模型や国分寺跡から出土した瓦等を展示。	＜国分寺館＞ 約 8,500 人	H25 教育委員会点検・評価報告書 H24 年度

※史跡公園は敷地面積、博物館等は延床面積

（４）全国

全国の先行事例調査は、縄文時代から古墳時代の史跡公園１０万人以上の利用者数のあるところを対象としました。なお、関東圏で挙げた史跡はこの一覧から除外しています。縄文時代に関しては、加曽利貝塚と同じ特別史跡（三内丸山遺跡、大湯環状列石、尖石石器時代遺跡）についても調査を行いました。

縄文時代の遺跡では、青森県の三内丸山遺跡の約３０万人で最も利用者が多くなっています。三内丸山遺跡は発掘調査時に巨大な６本柱跡や大型住居跡等の発見で注目され、縄文集落のシンボル的な存在として教科書にも掲載されました。遺跡としての知名度の高さと、６本柱跡等の大規模遺構の復元、博物館（縄文時遊館）の建設等の整備事業を推進したことによる施設面の充実、東北縦貫自動車道青森インターから車で１０分であることや、新青森駅・青森駅からのバス便等の交通アクセスの良さから、青森県の観光スポットの定番として定着したことが、集客数に反映されていると考えられます。また、観光案内サイトなどでは施設が充実しているが、博物館を含めて無料であることを評価ポイントとして挙げている利用者も多くみられました。博物館（縄文時遊館）自体は無料ですが、施設内にはレストランや売店があり、ここで一定以上の観光消費が行われていると推定できます。近接地に青森県立美術館（年間入館者数約２７万人）が立地していることも集客に寄与していると考えられます。この美術館も青森県の観光の定番スポットとして多くの観光案内に取り上げられており、三内丸山遺跡とセットで紹介されている例が多くみられます。なお、三内丸山遺跡は季節ごとにイベントを実施するなど、利用者を飽きさせない集客のための工夫も行っています。

弥生時代の大型集落として著名な佐賀県の吉野ヶ里遺跡（吉野ヶ里歴史公園）は、２０１６（平成２８）年度実績で約７３万人を集客しています。この遺跡は魏志倭人伝に記載のある望楼と推定される遺構が発見されたことから発掘時に大きな注目を集め、弥生時代を代表する遺跡として有名になりました。その後、国営公園となり大規模な整備事業が行われたことにより、１１７ｈａという広大な面積の中に、弥生時代の大規模集落を徹底的に復元整備し、望楼、祭殿等のシンボリックな遺構復元により、魏志倭人伝の「クニ」の中心集落を思わせる景観を創り出しました。広大な敷地面積を活かして、集落復元により歴史的景観を体感するエリアと、遊具やバーベキュー、グランドゴルフ等が行える遊ぶための公園エリアにゾーニングされています。長崎自動車道東脊振インターから車で５分と交通利便性にも優れています。利用者数は一時４０万人前後になりましたが、その後、イベントや体験学習に力を入れることにより利用者が回復しています。

宮崎県の西都原古墳群は歴史的価値の高い古墳群と共に、宮崎県を代表する花のスポットとして著名であり、春は約２０００本の桜と８ｈａに渡って咲く菜の花や、秋はコスモス、ヒマワリ、ツツジ、白梅等、季節ごとに花を楽しめることから、年間１００万人を超す観光客を集めています。こちらも東九州自動車道西都インターから車で約１０分の位置にあり、アクセスに優れています。

これら集客力の高い史跡公園に共通していることは、知名度（発信力）、交通利便性、施設面の充実、モニュメントを含めた歴史的雰囲気を体感できる景観、季節の花の観賞など歴史的要素以外に楽しめる要素を備えていることがうかがえます。これに対し歴史的価値は高くともこれらの要素を備えていない史跡では、集客面で苦戦している様子がうかがえます。

表　巻末 6-6　集客数が多い縄文時代から古墳時代の史跡公園

名称/所在地		概　要		利用者数	備考
		史跡公園	博物館等		
縄文	＜特別史跡＞ 三内丸山遺跡 /青森県青森市	史跡公園 約 20ha 縄文時代の集落跡で大型掘立柱建物・竪穴住居等の復元展示。タブレット端末による縄文時代の VR 体験と発掘調査時の解説等の IT ガイドも行う。縄文まつり等イベント開催。	縄文時遊館 7,360 ㎡ 出土した重要文化財等の展示、解説員によるミュージアムガイド、ビデオ上映、縄文時代中期の遺跡の復元模型を展示。図書閲覧コーナーを併設。体験学習や各種講座等も開催。	三内丸山遺跡 (縄文時遊館) 297,130 人	H27 青森県観光入込客統計 (H27.1.1-12.31)
	＜特別史跡＞ 大湯環状列石 /秋田県鹿角市	大湯環状列石 約 24ha 縄文時代後期の遺跡で環状列石を露出展示。	大湯ｽﾄｰﾝｻｰｸﾙ館 1,550 ㎡ 大湯環状列石の遺物や発掘調査結果を展示。体験工房やホール、野外広場等を併設。	大湯環状列石 18,475 人 ｽﾄｰﾝｻｰｸﾙ館 17,516 人	H27 鹿角市統計書 (H27.1.1-12.31) H28 秋田県観光統計 (H28.1.1-12.31)
	＜特別史跡＞ 尖石石器時代遺跡 /長野県茅野市	史跡公園 約 6.7ha 2 体の国宝土偶を代表とした縄文遺跡で復元住居を展示。木の実拾いや家族で縄文風の小屋作り等の体験学習を実施。	尖石縄文考古館 3,194 ㎡ 尖石遺跡・与助尾根遺跡と発掘を行った宮坂英弐氏の研究業績を紹介。国宝土偶や遺物、模型を展示。周辺の博物館と美術館と連携したイベント実施。	考古館 約 55,500 人	H28 県観光統計 (H28.1.1-12.31)
	上野原遺跡 /鹿児島県 霧島市	上野原縄文の森 約 36ha 縄文～中世の複合遺跡で、遺跡や地層の展示や復元集落、広場やアスレチック等を整備。縄文生活体験できる施設や、上野原縄文の森展示館、鹿児島県立埋蔵文化財センター等も併設。	上野原縄文の森展示館 3,070 ㎡ 上野原遺跡の重要文化財を中心に県内で発見された土器や石器等の遺物、上野原の縄文の世界をイメージした「縄文シアター」やジオラマ、映像資料等を展示。縄文の森全体を見渡せる展望所もある。	縄文の森 121,779 人 展示館 37,038 人	H28 霧島市統計書 (H27.4.1-H28.3.31)
弥生	＜特別史跡＞ 吉野ヶ里遺跡 /佐賀県神埼郡吉野ヶ里町・神埼市	吉野ヶ里歴史公園 約 73ha 弥生～中世の環濠集落跡で、祭殿、ムラ等の復元、甕棺や出土品展示。展示室や古代植物館、弥生くらし館を併設。グランドゴルフや野外炊事、アスレチック、弥生時代の植生を再現した森等を整備。	歴史公園センター 6,765 ㎡ 公園の案内所。ガイダンスルームやミニシアター、レストランを併設。 弥生くらし館 1,013 ㎡ 体験工房、土器復元作業を見学できる公開作業室、ギャラリー、映像室等。	歴史公園 約 731,000 人	国営吉野ヶ里歴史公園管理運営プログラム (H27.4.1-H28.3.31)
	＜特別史跡＞ 登呂遺跡 /静岡県静岡市	＜史跡公園＞約 7ha 弥生時代の集落・水田遺跡で、復元集落区域では野外体験学習ができる。	登呂博物館 約 2,300 ㎡ 出土遺物を展示。弥生体験展示室では住居、高床倉庫、祭殿、水田等が復元展示されている。	登呂博物館 186,436 人	H28 静岡市統計書 (H27.4.1-H28.3.31)
古墳	西都原古墳群 /宮崎県西都市	＜史跡公園＞約 62ha 古墳を復元整備、発掘された状態の遺構展示。考古博物館(体験館)、ガイダンスセンターを併設。ウォーキングイベント・天体観測会等も実施。	西都原考古博物館 約 6,600 ㎡ 南九州の歴史、ハンズオン展示。体験・実験講座の実施。 古代生活体験館 約 1000 ㎡ 古墳時代の道具作りや生活の一部が体験できる。	史跡公園 1,038,884 人	H27 宮崎県観光入込客統計調査 (H27.1.1-12.31)

7　専門家ヒアリングの結果

（1）吉野ヶ里歴史公園のヒアリング

１．ヒアリングの目的

４０万人の集客を７０万人へと向上させた吉野ヶ里歴史公園に、集客のための取り組みや管理運営について、加曽利貝塚に活かせる手法や事例を管理者から聞き取り、現地で整備や利用の実態を視察した。

２．日程

2016 年 12 月 14 日　吉野ヶ里歴史公園管理センターヒアリング及び視察
14:00～　国営海の中道会費公園事務所歴史公園課ヒアリング
14:30～　吉野ヶ里歴史公園管理センターヒアリング
15:00～　吉野ヶ里歴史公園史跡内視察
12 月 15 日　吉野ヶ里歴史公園史跡視察

３．吉野ヶ里歴史公園の概要

１）規模、事業概要

1992（平成 4）年に吉野ヶ里遺跡の国営公園化が決定、2001（平成 13）年に第 1 期開園区域 16.3ha（入口、北内郭、南内郭、西方倉庫群）供用開始。

2016（平成 28）年 12 月現在は、国営公園区域約 54ha はほぼ整備完了。県営公園部分 63ha 中、44ha の整備完了。

表　巻末 7-1　吉野ヶ里歴史公園の規模

国営公園区域（約 54ha）	特別史跡区域（約 22ha）
	県史跡区域（約 28ha）
	史跡指定地外（約 4ha）
県営公園区域（約 63ha　うち 43ha 整備済み）	史跡指定地外
計　約 117ha	

２）施設概要

発掘調査結果と公園設計のために実施された検討調査に基づき、吉野ヶ里の弥生集落は北上位、南下位の観念で構成されていたと推定し、北墳丘墓を祖霊の墓、北内郭を祭殿、南内郭を上位身分（大人・たいじん）の居住区、南のムラを庶民の居住区、南内郭の西側倉庫群をクニの宝物や税を納め、市が開かれた場所と設定し、建物のみならず当時の生活の様子を人形等で展示している。北墳丘墓は発掘時の遺構の露出展示を行っている。

利便施設は特別史跡区域内には設置せず、県史跡区域に体験学習等を行う施設（弥生のくらし館、古代植物館）が設置されている。史跡指定地外となる県営公園区域はレクレーション主体の公園緑地となっている。

園内は広大なため園内を走るバスが運行されている。

４．ヒアリング内容

１）来園者数の推移と構成

＜推移＞

開園当初の 2001（平成 13）年度は 68.1 万人の入園者があったが、その後落ち込み 2004（平成 16）年度には 41.5 万人となった。その後南のムラや祭りの広場等供用区域が追加されたことや、イベント、体験学習等の取り組みにより入園者数が回復し、2015（平成 27）年度には開園以来最高の 73.1 万人を記録した。2016（平成 28 年）度は熊本地震の影響で 68.5 万人に減少。熊本地震の影響は 2017（平成 29）年度も続いている。来園者数は入場券でカウントしている。

＜来場者の構成＞

九州からの来場者が６割を占めるが、年齢層に偏りはあまりない。他の史跡（公園）と比べて大学生等20代の来園者も多い。(10代の)主要な客層は修学旅行生。ハウステンボスとセットで回るパターンが多い。体験学習を行って、滞在時間は1～2時間程度である。

２）集客への取り組み

＜集客効果が高いと思われる取り組み＞

年間を通じて様々なイベントを実施している。東口駐車場で毎月第一日曜日に開催される軽トラ市は、多いときには１日で１万人近くが訪れる。

佐賀県が子育て支援の一環として子供連れだと県営区域は無料とする制度をつくったことや、国営公園部分を含めた年間パスポート（入場料半額）が発行されたことも、集客に貢献していると考えられる。

＜情報発信＞

管理者は園内の情報を公園HPやブログ、Facebook等のSNSを通じて情報発信している。季刊で「ひみか通信」を発行し、特別企画やイベント等を告知している（佐賀・福岡県内の小学校全校生徒、天神駅等で配布)。園内ではWi-Fiサービスを実施しており、来場者が園内で撮った写真のSNS投稿を促している。1カ月7～800件の接続がある。

＜人気のあるイベント・体験＞

春・秋に行う、南のムラでの宿泊体験は50人募集で100人ほどの応募が集まる。食事作りから全てスタッフを配置しなければならないため、スタッフの負担が大きい。トイレは弥生のくらし館の設備を利用、照明は通路のみ設置（暗闇を体験してもらう)。

修学旅行生がメインの客層のため、1時間程度で一度に大人数の生徒に体験してもらえるコンテンツが必要だが、難しい。

３）管理運営について

＜指定管理者＞

吉野ヶ里遺跡は国営公園区域と県立公園区域からなる。史跡指定地は全て国営公園区域に含まれる。両区域を公園財団が指定管理していたが、現在は区域ごとに指定管理者が異なり、国営公園部分と、県立公園区域は別の事業者が管理を行っている。また、国・県の関係者が毎月集まって報告等の打合せを行っている。

＜イベント等の企画＞

区域ごとに指定管理者がイベントを企画し、国と協議して行っている。

＜ボランティア＞

園内(国営区域)の案内、体験学習の指導の補助をお願いしている。修学旅行等で訪れた学童への指導・案内が主な業務のため、土日祝日の業務は少なく、スタッフの多くはシニア層である。開園時から長期勤めてもらっている方もいる。

養成のため、ガイドマニュアルを渡し、歴史講座へ参加してもらっている。公園センターには県文化課OBの歴史専門員もいるため、分からないことは都度確認してもらう。案内業務で話す内容を統一したいが、ボランティアなのでそこまでお願いできない。

＜予算＞

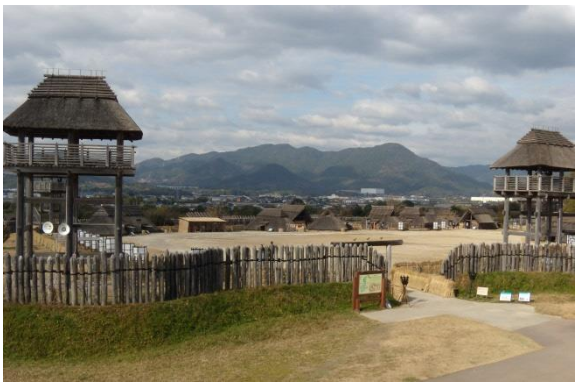
整備事業はほぼ終了しているため、専ら施設の維持管理費が予算の大半を占めている。

費用が掛かるのは復元建物のメンテナンスである。維持管理の計画を策定し、改修は毎年１棟ずつ順に行っている。

運営維持管理費は年間約5億円である(入園者数から、うち半分程度は入場料収入を充当できると推定)。

５．公園内視察

＜建物及び生活状況の復元＞



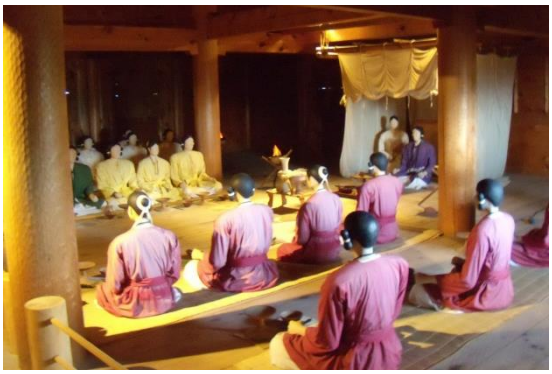
南内郭

北内郭　祭殿

倉と市

南のムラ

祭殿３階の祭りの様子　祖霊への祈り



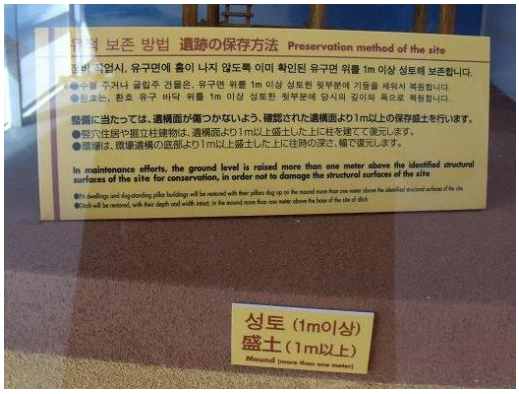
祭殿２階の祭りの様子　王と各地の首長の祭り

南内郭　王の家の様子

南内郭　大人の家の様子

＜サイン・案内・ユニバーサルデザイン＞

多言語・点字パンフレット



多言語による解説板

多言語の音声ガイド付き解説板

ＱＲコードによる意見収集

現在位置を示すサイン

点字による案内・解説

幼児・車イス対応の手洗い

復元建物に設置された昇降機

復元建物に設置されたスロープ

＜景観への配慮＞

半透明アクリル板による転落防止

排水枡の修景

園内照明

復元建物ライトアップの修景

植栽による屋外消火栓の修景

復元建物内部の照明

弥生をイメージしたスタッフの服装

＜ガイダンス施設・展示の工夫＞

入口ゾーンの映像ガイダンス

入口ゾーンのミニシアター

展示施設の映像ガイダンス

保存修理作業の公開

遺構露出展示

遺構上部をガラス越しに見られる展示

竪穴住居を模した簡易テント

建築基準を満たした竪穴住居の防災設備

＜園内施設＞

県立公園区域の施設（水飲み場）

県立公園区域の施設（炊事コーナー）

県立公園区域の施設（休憩施設）

県立公園区域の施設（遊具）

＜体験プログラム＞

■その場で気楽に体験できるメニュー

弥生体験の衣装貸出

かぶり物で弥生人の髪型みずらを体験

見て触れる生活道具の展示

スタッフによる展示物の作成

■その場で申し込み 30 分～1 時間程度で体験できるメニュー

勾玉作り

火おこし体験

■申し込み制でじっくり取り組むメニュー

公園内で育てた蚕の繭から糸をとり、布を織る

公園内のドングリ等を使った木エクラフト

６．加曽利貝塚グランドデザイン及び史跡整備事業への参考点

吉野ヶ里歴史公園は国営公園であり、国家事業として約 280 億円を投入して整備が行われ、維持管理運営経費も年間約５億円にのぼる。

史跡公園としては特殊な事例であり、加曽利貝塚とは条件・背景が異なる部分も多いが、整備ストーリー、運営管理の体制、体験学習プログラム、多言語対応、バリアフリー対応、園内交通等、多くの参考点があった。

１）整備ストーリー

大規模な環壕に囲まれた吉野ヶ里遺跡は、北墳丘墓が北端に位置し、墳丘墓の墓道の南正面に大型の重層建物が発見された北内郭、さらにその南側に内環壕に囲まれた南内郭、一番南側に内環濠がない南のムラが位置する。これらの発掘結果から、集落の構造を「北上位、南下位」の観念で構成されたと推定し、このストーリーに沿って整備が行われている。復元整備は「弥生人の声が聞こえる」をテーマに行われ、建物復元だけではなく、人形等を用いた生活シーンの復元も行われている。

復元展示は、ストーリーに基づいた弥生テーマパークとも言えるものであり、来園者に当時の集落の様子を体感させるのに一定以上の効果をもたらしていると考えられる。一般的にはあまり史跡公園を訪れることが無い若い世代の来園者も多いことは、その表れであろう。復元考察で中心的な役割を担った元佐賀県文化財課の高島忠平氏からは、６００年にわたる吉野ヶ里遺跡の変遷を踏まえた上で、復元対象時期となる弥生時代後期後葉の各ゾーンにおける生活シーンのシナリオを作成したとうかがった。

加曽利貝塚でも、縄文時代の加曽利の集落の様子をリアルに体感できる整備を行っていくためには、調査成果に基づいた生活シーンを検討していく必要があると考えられる。これは、博物館や史跡における展示解説のみならず、体験学習等のソフト事業のソース（源泉）にもなるものであると考えられる。

２）集客への取り組み

①イベント

集客効果の高い取り組みとして、公園管理センターではイベント（催事）を重視しているとのことであった。事前に配布いただいた運営維持管理業務マニュアルには 2011（平成 23）年度から 2013（平成 25）年度に 109 の催事（体験学習を含む）が実施され、約７７万人の参加があったことが記載されている。今回の視察期間中も「光の響」というライトアップイベントが開催されていた。これはシーズンオフとなる冬期の集客を狙ったもので、北内郭で行われたと推定される冬至の祭りにちなんで、冬至の時期に光を使った幻想的な景観を演出するイベントである。

またイベントの中には、他から持ち込まれ場所を提供する「持ち込みイベント」も存在する。その一つである「吉野ヶ里夢ロマン市　軽トラ市」は、地元の特産品や飲食物等を軽トラ等を用いて販売するもので、毎月第一日曜日に東口の駐車場で開催される。人気イベントに成長し、多い時には１万人近くの来客があるという。

この例から、市民に史跡を様々に活用してもらえるよう、持ち込みイベント歓迎の告知を行うべきと感じた。また、イベントを活発に行うためには、運営体制と共にイベントが行えるオープンスペース（広場、大型駐車場等）が必要であることを実感した。

②体験学習

体験学習には「弥生時代の衣装を身に着けてみる」といったその場で気軽に体験出来るもの、その場で申し込み３０分～１時間程度で出来るもの（蝋石での勾玉つくり、火おこし、鋳型を用いた銅鏡等の製作等）、申し込み制でじっくり取り組むもの（機織機を使ったコースターつくり等）がある。南内郭では公園スタッフによる生活用具の製作風景の公開も行われていた。

１時間程度の体験学習は弥生のくらし館、申し込み制の体験学習は古代植物館と場所を変えて実施している。修学旅行等の学校の団体利用では、３０分～１時間程度で出来る体験学習が中心となるため、弥生のくらし館の体験学習室は300 人程度が収容できるスペースが確保されていた。学校団体利用の際の体験学習メニューは、大勢の子供達が一斉に行え、最初の手順を説明した後は、スタッフが付いて指導をする必要が無いものであることが条件のようである。

加曽利貝塚でも気楽に行えるものからじっくり行えるものまで幾つかの種類の体験学習メニューを揃える

必要があると考えられる。また、学校の団体利用の際の体験学習メニューについては、団体利用が可能なスペースの広さと、大勢が一斉に行えるメニューの検討が必要であると考えられる。

③情報発信

吉野ヶ里歴史公園では、ホームページ等運営側からの情報発信とは別に、SNS 等を通じて来園者からの情報発信を促せるよう Wi-Fi サービスを実施している。

加曽利貝塚でも各種情報発信は実施しているが、来場者から園内の写真や情報を、SNS 等を通じて発信してもらえるような体制・設備の整備が必要であると考えられる。

３）管理運営について

①運営維持管理体制

吉野ヶ里遺跡公園では運営維持管理は指定管理者制度を採用している。国営公園部分は公園財団、地元造園会社等の共同事業体が受託しており、それぞれが全体統括、維持管理、広報宣伝など役割を分担して管理運営を行っているようである。

加曽利貝塚の運営管理のあり方については今後検討が必要であるが、集客のためには経験と発案力のある組織との協働が必要であると考えられる。

②スタッフ

公園管理事務所の正規スタッフの他に、アルバイトやボランティアのスタッフが重要な役割を果たしていた。約３０名いるというボランティアスタッフは、主に修学旅行等の学校団体利用の際の対応を担っているとのことである。古代植物館で体験学習の指導にあたっているスタッフは開園以来働き続けているとのことであった。これらのスタッフにより園内の古代の森の植物を利用した木工クラフト等、新しい体験学習メニューの開発や園内に置かれて目を楽しませるシカやイノシシのオブジェ製作なども行われていた。イベントの際の設営等もこれらのスタッフが参加している。また、外国人観光客に対応するためのスタッフや、急病人等に対応するための看護師資格を持ったスタッフも存在する。

吉野ヶ里歴史公園と加曽利貝塚では運営管理費が異なるため、同規模のスタッフを抱えることは難しいと考えられるが、学校の団体利用が多い加曽利貝塚でも一度に大人数の来場者の対応が必要となるため、ボランティアによる案内・指導補助の役割は重要であると考えられる。また、体験学習の実施にあたっても指導員が必要となることから、現在の協力三団体を基盤に新たなボランティア育成のための取り組みを行っていく必要があると考えられる。

４）園内の施設・設備について

その他、園内の施設・設備について参考点として気が付いた点は以下の通り。

・バリアフリー・多言語対応等のユニバーサルデザインを徹底されていた。
・サイン等のデザイン統一、弥生のイメージを損ねるような構造物・設備の修景を図られていた。
・竪穴住居での宿泊体験は人気のある体験メニューであり、建築基準と復元検討のすり合わせをしながら宿泊可能な施設として復元することも可能であった。
・公園として多様なレクリエーションの利用ができるよう施設整備がされていた。
・広大な敷地であるが、園内バスなど、対応が図られていた。

（２）北海道大学観光学高等研究センター西山徳明教授ヒアリング報告

１．ヒアリングの目的

歴史文化遺産を活かした観光や地域づくりの視点を本計画策定の参考とすべく、「地域で観光を創り出す」ための研究を行っている北海道大学観光学高等研究センターのセンター長西山徳明教授にヒアリングを行った。

２．日　程

２０１８（平成３０）年３月６日　１６時～１７時３０分　於北海道大学観光学高等研究センター

３．ヒアリング内容

１）歴史遺産を活かした地域づくりについて

史跡等の歴史遺産を観光や地域づくりにどう活かすかを考える時には、それ単体で捉えるのではなく、千葉市全体の遺産の中で捉えるべきである。加曽利貝塚を起爆剤として地域のブランド化に繋げていこうという方法もあると思うが、まずはその遺産の価値を市民や関係者が共有することが大切である。

①福岡県太宰府市の市民遺産

福岡県の太宰府市では５年間かけて２００５（平成１７）年に「文化財保存活用計画」という市内文化財の保存活用のためのマスタープランを策定した。これは歴史文化基本構想のひな形にもなった。この計画の策定にあたって市民ベースの歴史文化遺産調査を行った。市の学芸員の方々が指導しながら、市民が地域にどのような歴史文化遺産があるか調査する。大学の研究者が関わることもあった。市内の有形/無形、動産/不動産の歴史文化遺産が１万件くらい集まり、それをデータベース化した。

これを活用する方法として、私は市民遺産という考え方を提唱した。地域の歴史、文化、自然等、地域が自慢したいストーリーとそれを構成する資産を地域の住民の方々が市民遺産として提案する。それを市民遺産会議で説明して討議し、認められれば市民遺産として登録される。この活動によって多くの市民が自分たちの地域の歴史文化遺産の価値を知り、自らの手で発掘していった。

太宰府市は福岡市のベッドタウンで、太宰府天満宮や特別史跡の大宰府跡その他の史跡が多くあるが、それが必ずしも市民に認識されていなかった。市民遺産活動により歴史の街という認識が市民に広がり、眠っている資産が顕在化された。これを観光や経済的なことにつなげていくこともできる。

②山口県萩市の「萩まちじゅう博物館」

市民遺産をエコツーリズムとエコミュージアムとして展開したのが「萩まちじゅう博物館」である。コアとなる本格的な博物館の他に萩の町の武家屋敷、町人地、港町等のエリアそのものをサテライトと考え、ここにさらにサテライトのコア・ミュージアムをつくる。サテライトのコア・ミュージアムはその地域の（空き家となった）古民家等を活用する。そして、地域の歴史文化遺産をめぐるルート（ディスカバリートレイル）を設定して、マップをつくりサテライトのコア・ミュージアムで情報提供する。大元のコア・ミュージアムではこうした萩まちじゅう博物館に関する情報提供や展示が行われる。

大切なのは、サテライトとなる地域の歴史文化遺産の洗い出しや、それを結ぶディスカバリートレイルの設定・発見を、地域の方々が参加して行うことである。太宰府の市民遺産で行ったような調査（ワークショップ）を積み重ねて、これらが出来上がっていった。そしてサテライトのコア・ミュージアムとなった伝統的な木造建築の活用方法についても、萩市および委員会が地元の方々と活用方法について２年間にわたって議論した。その結果、オープンと同時に住民の方々の交流の場となり、観光客をもてなす場となった。そして、この取り組みによって、浜崎という港町が、３万～４万のお客さんが訪れるようになった。伝建地区になって電柱や老朽家屋の多かった街並みも１０年かけて美しくなった。

これに触発された萩の様々な地域が、サテライトに名乗りをあげ、先ほどのような調査を行い、地元のまちづくりの組織をつくり、行政に頼んで拠点施設の整備を順次展開している。とても成功したまちづくり例となった。

２）事業の進め方、組織体制のあり方について

①計画・設計段階から市民参加で事業を進めることが重要

歴史文化遺産を活かした地域づくりを進めていく際に重要なことは、地域の人々を巻き込んでいくこと。これはモノやハコが出来てからでは遅く、計画や設計の段階から行っていく必要がある。太宰府市の例も萩市の例も計画の段階で市民が参加して事業を進めていった。

②官民協働で事業を推進しマーケットにつなげることができる体制づくり

また、地域の遺産を活かした観光ということではこれからはＤＭＯ（Destination Management Organization）の役割が重要であると言われている。観光庁の「明日の日本を支える観光ビジョン」でもＤＭＯ（※注１）の設立が挙げられている。歴史文化遺産を活かした地域づくりは、その地域の人々が地域の遺産の価値を知って地域に愛着を感じるようになる、地域交流が活性化するという側面と共に、その資産の価値を観光や物産開発などマーケットにつなげる側面がある。ＤＭＯはこの両者を総括するようなプランを企画・実行できるものであることが望ましい。

資産の価値をマーケットにつなげる経済開発的な側面を含めた地域づくりを行うためには、民間事業者のノウハウを取り入れることが必要となる。ＰＰＰ（Public Private Partnership）の視点が重要になる。ＰＰＰとは従来はPublicの役割と思われていた公益目的の事業を、Public sector（行政等）の権限とPrivate sector（民間）の事業遂行ノウハウやファイナンス力等を、相乗効果的に活かすことでより経済的で高品質なものとするためのPartnership（関係）である。これからの観光開発においては、公益目的を掲げる非営利の地域運営組織（例としてＤＭＯ）を設立し、ＰＰＰ理念に基づいた観光開発を行うことで、従来の公益事業（遺産保護、修復、コミュニティの活性化等）を官民協働で行っていくのがあるべき姿となる。

③加曽利貝塚の遺産活用は市全体の枠組みの中で検討することが重要

観光につなげるような集客を考えるのであれば、ＤＭＯのような組織をＰＰＰの理念に基づいて運営していくことが重要であろう。千葉市が市としてＤＭＯの設立を検討して進めていくなど、市全体の枠組みの中で検討する必要があると考えられる。

※注１ＤＭＯ：観光経営の視点に立って、観光地域づくりを行う組織・機能

８　千葉市まちづくり未来研究所による政策提言報告書の抜粋

千葉市まちづくり未来研究所とは、研究テーマについて知識・関心のある公募による研究員が、自主運営によるグループワーク等を通じ、政策提言をとりまとめ、さらに、その提言の実現に向け、様々な活動に主体的に参画していく仕組みであり、研究員による活動そのものが「千葉市まちづくり未来研究所」となります。２０１６（平成２８）年１０月からは、「都市アイデンティティによるまちのデザイン」をテーマにした研究活動が始まり、２０１８（平成３０）年３月に政策提言報告書がまとめられました。

ここでは、その政策提言報告書のうち、加曽利貝塚についての部分を抜粋して掲載します。

（１）縄文のまち活性化プロジェクト政策提言　抜粋

1 縄文のまち活性化プロジェクト　政策提言

【研究員】遠藤智世、太田正孝、押尾衛、加納弓、竹内英二、宮下登久子

目次

1.　背景、現状・問題、方向性、加曽利貝塚概要
1.1.　背景
1.2.　現状・問題
1.3.　方向性
1.4.　加曽利貝塚概要
2.　政策提言
2.1.　情報発信
2.2.　博物館の建設
2.3.　縄文の森公園パークレンジャー制度の創設
2.4.　貝塚公園の整備
2.5.　遊び場としての縄文の森や公園の整備
2.6.　加曽利貝塚周辺における「民泊・飲食施設」等の整備
2.7.　加曽利貝塚までのアクセス改善
2.8.　坂月川ネイチャーバス、散策路の整備、丸木舟レース
3.　参考資料

1.　背景

日本全国には縄文時代の貝塚が 2400 か所ほどある。千葉市はその内約 130 か所を数え、最大の貝塚都市である。なかでも加曽利貝塚は全国的に代表的な貝塚遺跡である。

かつて、日本が高度成長の時代、加曽利貝塚にも開発の波が押し寄せた。この時加曽利貝塚を守れと立ち上がったのが千葉高教諭武田宗久氏と多くの千葉市民だった。この市民運動の高まりにおされて、千葉市は貝塚史跡を全面的に買収した。さらに市は市民の熱意にこたえ、当時としては珍しい遺跡博物館と野外観覧施設を建設した。

時が経ち、市民の熱意も冷め、施設は老朽化し、加曽利貝塚は次第に世間から注目されなくなってきた。しかしこの状況を打破したのが今回の特別史跡指定である。

昨年 10 月の特別史跡の指定は、改めて加曽利貝塚のすばらしさを宣言するものであった。

指定以来多くの人々が再び来館するようになった。と同時に加曽利貝塚の環境の不備が指摘されるようになった。それは貧弱な展示室、トイレ環境、アクセスの分り難さ諸々である。

この特別史跡指定を好機として、私たちは、加曽利貝塚に来る多く人々が感銘を受けもう一度来てみたいと思える環境を整えること、また加曽利貝塚が縄文文化研究の先進的な発信拠点であること、このような姿を目標とし、世界に誇れる加曽利貝塚を作り上げていきたい。かつてここを守り保存した熱いたくさんの市民の思いを継承するために。

2.　現状・問題

(1)　加曽利貝塚までのアクセス改善
(2)　ボランティアの募集・育成
(3)　市民の協力の充実
(4)　縦割り行政の統合調整機関の創造
(5)　総合的な情報発信
(6)　魅力を感じる縄文の森の整備（多世代にわたるリピーター作り）

3.　方向性

(1)　市民が活躍する縄文の森
(2)　日本が誇る縄文文化の最先端拠点づくり
(3)　国内外から人の集まる特別史跡

4. 加曽利貝塚概要

2.2.1 情報発信

1. 目的
   (1) 毎年の発掘調査をおこない、その成果の公表・発信を目的とした「縄文サミット」を開催し、学術関係者のみならず市民にも情報発信をおこなう。
   (2) 現在開催されている「縄文春祭り」と「縄文秋祭り」を毎年開催し、市民向けの情報発信や市民との協働の機会とする。
   (3) 「縄文の森」の周知にかんするイベントを行う。

2. 理由
   (1) 現在発掘調査がおこなわれているが、その成果をより多くの人に知ってもらう必要がある。
   (2) 研究者や市民に向けた学術情報発信の場や交流の機会を提供する必要がある。
   (3) 「縄文春祭り」と「縄文秋祭り」は、特別史跡化の効果もあり大盛況であった。今後、さらなる情報発信と、市民を巻き込む機会として活用するため、定期的な開催と、市民参加のしくみが求められる。

3. 内容
   (1) 学術的側面
      - サミットを定期的に開催し、千葉市が主体となる。とくに、学術的な価値を広める場として、縄文時代の遺跡をもつ自治体と連携しこれらを開催すれば、国内外への発信の機会となる。
      - 研究者や関係者によるシンポジウムを開催する。
   (2) 市民参加
      - 現在おこなわれている「縄文春祭り」「縄文秋祭り」を毎年開催する。
      - パークレンジャーが主体となって開催し、博物館と市が協力する

4. ファーストアクション
   (1) 発掘成果の公表
   (2) 縄文時代の遺跡をもつ自治体との関係構築
   (3) 縄文祭りの関係者で協議し、ボランティアが活動できる部門を作る
   (4) 縄文時代を感じられる飲食物や物品の開発

5. ゴール（目指すべき姿）
   - 加曽利貝塚が国内外に知られており、「縄文貝塚遺跡といえば加曽利貝塚」と言われるようになっている。
   - 縄文祭りが、パークレンジャーと市民が主体となって開催されている。

- 縄文時代を感じられる飲食物や物品が市内外に知られ、有名になっている。
- 千葉市は「縄文サミット」の初開催都市となり、加曽利貝塚周辺には、民泊を利用して多くの研究者が集まっている。

2.2.2 博物館の建設

1. 目的
   多目的な機能と研究機関を備えた博物館を建設

2. 理由
   (1) 特別史跡の指定にあたり、文化庁から現在の博物館を史跡外に出すよう指導されている。
   (2) 現在の博物館は老朽化していて耐震性も希薄である。
   (3) あまりにも手狭であり、加曽利の魅力を充分に発信できていない。展示品も少なく縄文文化を学習・経験・発信するには不十分である。
   (4) リピーター客がいない。
   (5) 研究機関が併設されていない。

3. 内容
   (1) 移転先を現臨時駐車場にする。
   (2) 縄文時代が良くわかる展示が行える十分な広さを持つ展示室
   (3) 見学者への研修が行える最新設備を持つ研修室
   (4) ボランティアの控室、地域住民のためのコミュニティー室
   (5) 縄文時代関係の図書室
   (6) 縄文文化を世界に発信できる研究機関
   (7) 見学者のためのレストラン

4. ファーストステップ
   (1) 移設先の候補の一つの現臨時駐車場は、私有地であり買収交渉が必要である。
   (2) 地域は第一種低層住宅地域であるため、用途地域の変更が必要でもある。
   (3) 博物館建設の基本構想作成委員会に市民の参加を求めること。

5. ゴール（目指すべき姿）
   - 見学者が縄文の知識と経験に触れ、縄文文化を身近に感じられる博物館。
   - 常に新しい縄文文化に触れられ、また来たいと思う博物館である。
   - 縄文文化について最新情報が常に発信できる博物館であり世界中の学者学徒が来館する。
   - また、地域住民やボランティアの拠り所でもある。

6. 必要な資材
   (1) 建設用地買収費
   (2) 博物館建設費用

2.2.3 縄文の森公園パークレンジャー制度の創設

1. 目的
   (1) 加曽利貝塚公園や縄文の森で活動する団体を一括する団体を設置することで、当該エリアにおける諸団体の活動の円滑化を図る。
   (2) 団体の名称は「縄文の森パークレンジャー」とする。
   (3) 「縄文の森パークレンジャー」内に以下の団体を新設する
   - 縄文の森が保全地区に指定されるので、その維持・管理をおこなう「公園メンテナンス・保全ボランティア」
   - 遊びに来た子供たちに遊び方を教える「縄文の森プレーリーダー」
   - 外国人観光客の増加に対応する「多言語ガイド」

2. 理由
   (1) 加曽利貝塚と縄文の森には、現在「加曽利貝塚博物館友の会」「加曽利貝塚土器づくり同好会」「加曽利貝塚ガイドの会」「加曽利自然観察会」「坂月川愛好会」「縄文の森と水辺を守る会」などの団体があるがそれぞれ別個に活動をしている。これらを効率的に連携し合えれば大きな力になる。
   (2) 縄文の森は広さ 22 ㌶あり、緑地保全によって規制がかかっている。中央部分には坂月川が流れ、その周囲は休耕田が荒れ放題で放置されている。小倉の森は、雑草や樹木が伸び放題である。そのため、「公園メンテナンス・保全ボランティア」を設置し、広く参加者を募る。
   (3) 特別史跡化を受け、多様な来訪者に対応する必要がある。そのため、多言語ガイドといった、従来にはないガイド方法を充実させる必要がある。

3. 内容
   (1) 「縄文の森パークレンジャー」における構成団体内での情報共有
   (2) ボランティア等の人材育成、募集の管理運営
   (3) 加曽利貝塚公園に常住の事務局を置き、運営にあたる
   (4) 坂月川を利用したイベントの実施
   (5) 小倉の森の整備と子供のあそび場の建設
   (6) ビオトープの拡大
   (7) 湿地を利用したイベントの実施
   (8) 小倉台に大須賀家、四関家を移設・整備し民泊・飲食の運営
   (9) 「縄文の森基金」を創設し市民からの募金を管理する。

4. ファーストアクション
   (1) 事務局の設置
   (2) 検討委員会の設置

   (3) 基金の設置
   (4) NPO の立ち上げとボランティアの募集
   (5) イベントの実施。

5. ゴール（目指すべき姿）
   - 加曽利貝塚や縄文の森に関心をもつ市民が、「縄文の森パークレンジャー」として関わっている。
   - 縄文の森パークレンジャー事務局が、各団体のボランティアの募集や人材育成などの情報を一元的に管理しているため、各団体のボランティアの要請や、イベント時などにスムーズに対応できている。それにより、ボランティア団体が安定的に継承されている。
   - 広大な「縄文の森」の保全が、近隣住民のみならず、自然保護や縄文遺跡に関心をもつ市民によって担われている。
   - プレーリーダーを導入したことにより、近隣だけではなく、より多くの子どもたちに自然に触れ合って遊ぶ機会を提供できている。とくに、自然の少ない地域に住む子供には良い機会となる。
   - 縄文の森のイベント、維持・管理のための運営経費は、市民の寄付、自主事業収益、市等からの受託費用を持って賄う。

6. 必要な資源
   (1) センター設置場所（部屋）
   (2) 運営経費

坂月川と縄文の森

2.2.4 貝塚公園の整備

1. 目的
   加曽利貝塚は、13.4 ヘクタールあり市民の公園としても広大である。特別史跡である研究対象としての貝塚と憩いの場としての公園、また広域避難場所としての整備が必要。

2. 理由
   (1) 特別史跡の指定を受け、多くの人々が来訪することが予想される。しかし、現在の旧態依然の手洗い所、バリアフリーになっていない観覧施設と散策通路は障碍者へ失望を与える。
   (2) また、市民を含めた来訪者への休憩所の整備も必要である。
   (3) 子供の来訪が少なく、リピーターもいない
   (4) 広域避難場所としての備えがない

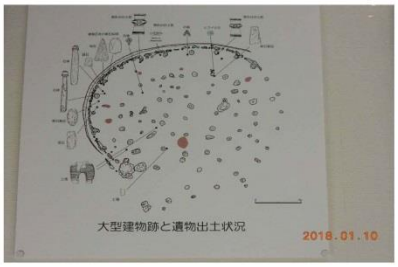
3. 内容
   (1) 新たな野外施設として大型建物の復原
   (2) 野外施設のバリアフリー化と外国人でも理解できる案内板や機器を設置する。
   (3) 手洗い所の整備
   (4) 樹木を伐採し貝塚の盛り上がりをよく分かるようにする。
   (5) 市民が憩える東屋を設置する。
   (6) 大須賀家を移設する。
   (7) 防災無線等を整備し、園内イベントでも使用できるようにする。

4. ファーストステップ
   (1) トイレの近代化。
   (2) 施設のバリアフリー化
   (3) 大型建物の復原

5. ゴール（目指すべき姿）
   - 児童用遊具等も置いて子供が何時でも遊べる。障碍者も不便な思いをすることなく施設を移動し、見学できる。外国人には野外観覧施設ごとに外国語での案内がある。
   - 貝塚の盛り上がりが良くわかる加曽利貝塚公園。
   - 大型建物を復原し新たな魅力を発信する。

6. 必要な資源
   (1) 整備費用
   (2) 建設費

古いままのトイレ



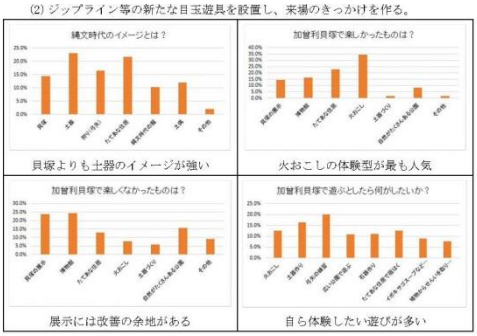
大型建物跡の記録

2.2.5 遊び場としての縄文の森や公園の整備

1. 目的
   (1) 子供たちをターゲットとし、縄文の森特別緑地保全地区及び坂月川、加曽利貝塚公園エリアの全体を子供たちが遊べる縄文の森テーマパークとして整備する。
   (2) 観光資源としての加曽利貝塚の磨き上げを行い、来場者を増やすことで、公園及び周辺地域全体の活性化を図る。

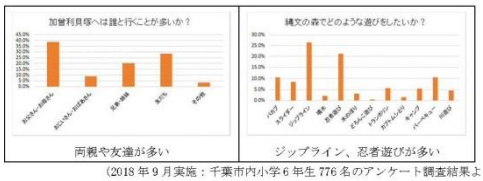
2. 理由
   (1) 加曽利貝塚に最も多く訪れる来場者は、社会科見学に来る小学生たちであり、子供たちの意見を反映した公園づくりに効果が期待できるため。
   (2) 小学生たちの意見を反映した「あそび場」を設けることで、加曽利貝塚に「また来たい」と感じさせ、リピーターになってもらうため。

3. 内容
   提案内容は千葉市内小学6年生アンケートに基づいた内容としている。アンケートの自由回答欄では「体験」という言葉が最頻語であったため、「体験」を重視した整備の方向性とする。
   (1) 体験型の遊び内容を整備する。
      ① 市民から貝を集め貝塚を新規に作る。
      ② 弓矢の練習、土器づくり、竪穴式住居での宿泊
   (2) ジップライン等の新たな目玉遊具を設置し、来場のきっかけを作る。



貝塚よりも土器のイメージが強い　火おこしの体験型が最も人気

展示には改善の余地がある　自ら体験したい遊びが多い



両親や友達が多い　ジップライン、忍者遊びが多い

（2018年9月実施：千葉市内小学6年生776名のアンケート調査結果より）

4. ファーストアクション（最初にまず行う取組）
   (1) 貝塚作り、弓矢の練習、土器づくり、竪穴式住居での宿泊等の体験型の遊びの中から実現できる遊びをピックアップし、ボランティアの育成を行う。
   (2) ジップライン等の子供に人気があり、かつ話題性のある遊具の選定し、設置場所の検討を行う。

5. ゴール（目指すべき姿）
   縄文をテーマとした体験型の公園を目指し、貝塚以外にも興味を持っている来場者数を増やす。加曽利貝塚縄文の森への観光客数を増やし、公園及び周辺地域全体の活性化を図る。

6. 必要な資源
   (1) 体験型遊具
      貝塚作りの場所の確保、弓矢練習場の確保、竪穴式住居の整備、ジップラインの設置
   (2) 体験指導のボランティア
      体験型の遊びの指導者の育成

2.2.6 加曽利貝塚周辺における「民泊・飲食施設」等の整備

1. 目的
   (1) 来訪者等のための宿泊施設を作る。
   (2) 我が国最大級貝塚の地域文化と、緑豊かな里山といった自然資源を活用し、千葉市経済の活性化を担う。

2. 理由
   (1) 研究者のため、里山自然観察する児童生徒のため、観光者のための宿泊施設を整備する。
   (2) 観光立国として国は2020年までに旅行者数と消費額倍増の目標を掲げている。千葉市に於いてもそれは目標であり、加曽利貝塚は千葉市に於ける貴重な観光資源のひとつです。
   (3) 若葉区に指定された特区民泊制度（平成29年に、若葉区・緑区一部地域に指定された）を導入し、経済効果を高める。
   (4) 現在移籍先が決まっていない大須賀家、旧四関家を民泊施設として移設する。

3. 内容
   (1) 現在加曽利貝塚に存在する「旧大須賀家」並びに解体保存中の「旧四関家」を国の登録有形文化財建造物制度による指定を受け、宿泊施設・飲食施設等に活用する。また、若葉区は今年国家戦略特別区域に指定された。この制度を導入し貝塚への来訪者や、日本人はじめ外国人観光客等への滞在施設を創設し、滞在に必要な役務を提供する。
   (2) 児童生徒の里山体験宿泊施設としても利用する。

4. ファーストステップ
   (1) 遺跡内に存在する「旧大須賀家」と解体保存中「旧四関家」2棟の登録有形文化財建造物登録をし（国からの助成が期待できる）保存活用する。行政・専門家・地域住民・ボランティア団体等が構成員となり使用課題等の検討を行う。
   (2) 既に特区民泊施設特定認定事業者となられた方々との連携を諮りながら、若葉区の特区民泊エリアに存在する建物の掘り起し調査と共に事業者を募る。調査等の構成員は、地域住民・行政・専門家・ボランティア団体・特区民泊施設特定認定事業者等とする。
   (3) 大須賀家、四関家を小倉台に移転し、民泊として活用する。

5. ゴール（目指すべき姿）
   世界に誇る加曽利貝塚は保存活用等への整備が施され、周辺エリアの豊潤な大地に広が

る自然界では余暇活動が活発化し、日本を始め世界の国々からの来訪者で賑わい滞在型宿泊施設・飲食施設が繁盛する「消費額倍増の観光まち」が誕生する。

6. 必要な資源
   (1) 旧大須賀家・旧四関家は、登録有形文化財建造物登録後届出、保存活用する。
      - 移設場所
      - 移築費用
      - 経営する事業者
   (2) 滞在型宿泊施設
      - 計画・調査費用
      - 日本文化にふさわしい建物
      - 経営する事業者

旧大須賀家（加曽利貝塚内）

旧四関家（解体保存中）

旧大須賀家（内部）

2.2.7 加曽利貝塚へのアクセスの改善

1. 目的
   加曽利貝塚への経路を分かりやすく、縄文文化への案内と分かる案内をする。

2. 理由
   (1) 現在の桜木駅は加曽利貝塚への最寄り駅であるにも関わらず案内表示がない。
   (2) 桜木駅から加曽利への徒歩経路が分かりづらい。
   (3) 最も近いバスの停留所も徒歩 15 分はかかるのでもっと短縮する。
   (4) 車での案内表示も不十分である。

3. 内容
   (1) モノレール千葉駅から桜木駅への案内を分かりやすくする。
   (2) 桜木駅は、「加曽利貝塚前」と駅名を改称するか、（加曽利貝塚前）というサブネームをつけ分かりやすくする。桜木駅は貝塚の駅であるという雰囲気を駅全体で表現する。
   (3) 加曽利貝塚への徒歩経路は、「縄文のこみち」という愛称をつけ縄文文化の雰囲気を伝える土器や土偶の配置を行い、わくわく感を醸し出すようにする。
   (4) バス交通は定期バス経路を加曽利貝塚まで延伸する。あるいは現在の停留所をもっと加曽利貝塚に近い所に移動する。
   (5) 車利用者には、遠距離からも誘導できるよう標識を整備する。
   (6) 外国語案内板を整備

4. ファーストステップ
   (1) モノレール会社との交渉。
   (2) 「縄文のこみち」改修に向け周辺住民の理解の促進。
   (3) バス会社との交渉。
   (4) すべての標識の見直し。

5. ゴール（目指すべき姿）
   加曽利貝塚へ行こうと思う市民・外国人が、電車、徒歩、バス、乗用車等何を使っても容易く楽しくワクワク感を持って加曽利貝塚へ来ることができる。

6. 必要な資材
   (1) 広告費
   (2) 標識等製作費
   (3) 道路整備費

外国語案内板

現在の桜木駅

2.2.8 坂月川ネイチャーパス、散策路の整備、丸木舟レース

1. 目的
   坂月川とその天端の整備を行い。坂月川で丸木舟レースまたはカヤックのレースを行う。また、天端の整備により加曽利の里山から東京湾まで散策できるようにする。縄文時代と変わらない坂月川周辺を保存し自然環境の生態学習や歴史を学ぶ場所にする。

2. 理由
   (1) 加曽利貝塚は、海と密着した遺跡である。
   (2) 縄文の森が、縄文時代から続く景観である。
   (3) ホタルやカワセミの来る自然豊かなエリアにする。

3. 内容
   (1) 坂月川の天端を整備し、市民のジョギングやサイクリングがおこなえる堤防散策路を海までとして活用する。
   (2) 散策路の中途には、休憩所・手洗い所を設置する。
   (3) 坂月川の流れを滞留させている土砂の浚渫を行い、東京湾と加曽利貝塚を結ぶ丸木舟やカヤックのレースを行う。東京にも近くカヤック競技等のメッカにしていく。
   (4) 放置されている休耕田の整備、荒れている山の整備を行う。
   (5) 旧大須賀家、旧四関家を小倉台に移設し、カフェ、民泊等の施設にする。
   (6) 豊かな自然で、環境学習のイベントを行う。

4. ファーストステップ
   (1) 坂月川は千葉市の管轄であり、都川は 2 級河川で県の管轄であるため川の整備のため両者の調整を行う。
   (2) カヤック等競技の実行委員会の立ち上げを行う。

5. ゴール（目指すべき姿）
   子どもたちは、坂月川周辺で、泥遊びに戯れ、大人たちは小倉台のカフェから里山を見ながらお茶をすすり、川の堰堤では、ジョッギングをしたり、自転車をこいだり、散策をしたり各々自然を楽しんでいる。今日は、寒川からここまでのカヤック競技があり、ゴールのため多くの人が集まっている。そろそろ、蛍も飛びそうだ。

6. 必要な資材
   (1) 河川の整備費
   (2) イベント開催費
   (3) 小倉台の整備費と旧大須賀家、旧四関家の移築

＜坂月川＞

＜大須賀家＞

1-19

謝辞

加曽利貝塚グループにおける研究員としての活動ならびに、本提言の作成に際して、市川市立市川考古博物館、飛ノ台史跡公園博物館、千葉市文化財課の皆様にお世話になりました。また、アンケートに際しては、千葉市教育委員会、都賀小学校、山王小学校、生浜西小学校、大巌寺小学校、さつきが丘西小学校、上の台小学校、平山小学校、扇田小学校、稲浜小学校、真砂西小学校、大宮台小学校、千城台東小学校、の先生ならびに 6 年生の児童の皆様にご協力いただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

1-20

参考資料 1　アンケート質問票

【アンケート概要】
時期：H29.9 中旬～H29.10 中旬　　対象：千葉市内小学 6 年生
方法：学校内で書面による回答　　回収数：776 名

加曽利貝塚についてのアンケート

私たちは、「千葉市まちづくり未来研究所」の研究員です。加曽利貝塚を、どのようにしたらもっと楽しくできるかを考えています。そこで、小学生のみなさんのアイデアを聞きたいと思い、このようにアンケートをすることにしました。
アンケートの結果は、誰が書いたかを分からないようにしてまとめ、千葉市長に提出する「加曽利貝塚での遊び場所についての提案」に使います。

Q1 縄文時代といえば、何をイメージしますか。あてはまるものを**いくつでも**えらんで、番号に○をつけてください。

1. 貝塚	2. 土器	3. 狩り（弓矢）	4. たてあな住居
5. 縄文時代の服	6. 土偶（どぐう）	7. その他（　　）	

Q2 加曽利貝塚を見学したとき、何が楽しかったですか。あてはまるものを**いくつでも**えらんで、番号に○をつけてください。

1. 貝塚の展示	2. 博物館	3. たてあな住居	4. 火おこし
5. 土器づくり	6. 自然がたくさんある公園	7. その他（　　）	

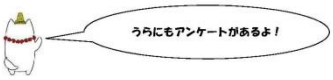
Q3 加曽利貝塚を見学したとき、何が楽しくなかったですか。あてはまるものを**いくつでも**えらんで、番号に○をつけてください。

1. 貝塚の展示	2. 博物館	3. たてあな住居	4. 火おこし
5. 土器づくり	6. 自然がたくさんある公園	7. その他（　　）	

Q4 今の加曽利貝塚公園で遊ぶとしたら、何がしたいですか。あてはまるものを**いくつでも**えらんで、番号に○をつけてください。

1. 火おこし	2. 土器作り	3. 弓矢の練習
4. 広い公園で遊ぶ	5. 石器作り	6. たてあな住居で宿ほく
7. イボキサゴスープ*など縄文時代の料理を作ってみる		8. 植物からせんいを取り出し服を作る

*イボキサゴ…縄文時代の人が食べていた貝のこと。今でも千葉県内の海岸でとれます。



1-21

Q5 学校の校外学習以外で加曽利貝塚に遊びに行くときは、だれと行くことが多いですか。あてはまるものを**いくつでも**えらんで、番号に○をつけてください。遊びに行ったことがない人は、もし行くことになった場合はだれと行くかを、いくつでもえらんで番号に○をつけてください。

1. お父さん・お母さん	2. おじいさん・おばあさん	3. 兄弟・姉妹
4. 友だち	5. その他（　　）	

Q6 もし加曽利貝塚の近くにある森で遊ぶとしたら、どのような遊びがしたいですか。**1 つだけ**選んで、番号に○をつけてください。

1. バカブ*	2. スライダー	3. ジップライン	4. 噴水
5. 忍者遊び	6. 木のぼり	7. どろんこ遊び	8. トランポリン
9. カブトムシとり	10. キャンプ	11. バーベキュー	12. 川遊び

*バカブ…森の中にネットをはりめぐらせた遊具のこと

Q7 加曽利貝塚をもっとおもしろくするには、どのようにしたらいいと思いますか。自由にかいてください（箇条書きでもかまいません）。

1-22

※アンケートの個別回答は省略しています。

特別史跡加曽利貝塚グランドデザイン

発 行 日　　２０１９（平成３１）年２月

編集・発行　　千葉市・千葉市教育委員会

〒２６０－８７３０
千葉県千葉市中央区問屋町１－３５ 千葉ポートサイドタワー１１階
千葉市教育委員会事務局生涯学習部文化財課
電　話　０４３－２４５－５９６０
E-mail　bunkazai.EDL@city.chiba.lg.jp

千葉市
CHIBA CITY

加曽利貝塚ＰＲ大使
かそりーぬ